

2016年11月14日

各 位

会 社 名 第一生命ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 渡邊 光一郎
(コード番号：8750 東証第一部)

2017年3月期 第2四半期決算補足資料 (第一生命ホールディングス株式会社分)

2016年11月14日

第一生命ホールディングス 2017年3月期第2四半期決算を発表

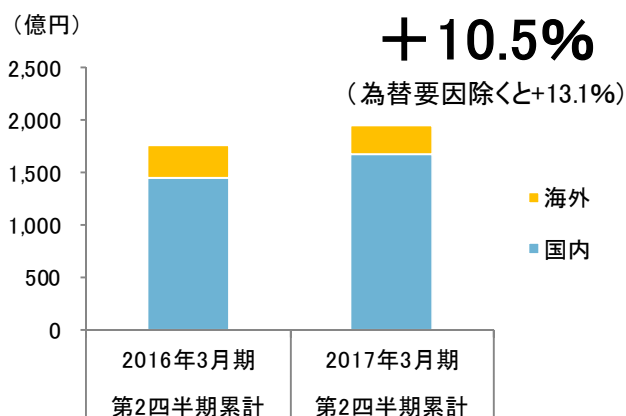
第一生命ホールディングス株式会社(社長: 渡邊 光一郎)は、11月14日に2017年3月期第2四半期決算を発表しました。以下は社長の渡邊からステークホルダーの皆さまへのメッセージです。

2017年3月期第2四半期決算について

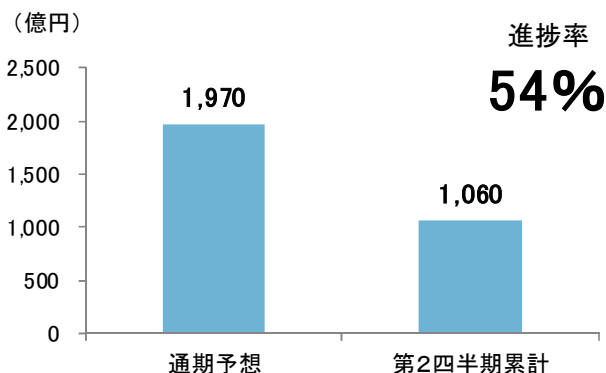
平素より、私ども第一生命グループをお引き立ていただき、ありがとうございます。

2016年1月末にマイナス金利政策が導入され、市場金利は今年度、一層低位で推移しました。これを受け、国内生命保険事業では一時払いの貯蓄性保険商品の販売を抑制する判断を下しました。戦略的にトップラインを抑制しながら、低金利が中長期的に続く環境下においても収益を確保できる体質を固めるべく、商品ポートフォリオを保障商品へシフトさせ、資産運用の高度化を進めています。決算は前年同期比でこそ減収・減益となりましたが、海外生命保険事業の利益貢献が堅調に拡大しており、第2四半期累計の親会社株主に帰属する中間純利益は通期業績予想に対して54%と、ほぼ想定通りの進捗となりました。

グループ新契約年換算保険料



親会社株主に帰属する中間純利益



第一生命では、7つのリスクに対応する保障に加えて貯蓄性も備えた新商品を発売、若年層を対象に保障性商品をパッケージ化した商品も投入します。第一フロンティア生命でも据置き期間が短い年金など外貨建て商品のラ

インアップ拡充を進めています。海外ではTALの個人向け販売が堅調に推移し、オーストラリア市場でトップシェアを堅持しているほか、第一生命ベトナムでも個人代理人チャネルの強化やチャネルの多角化取り組みが奏功し、シェアの拡大が続いています。こうした取り組みの結果、第一生命グループの新契約年換算保険料は前年同期比10.5%増、為替影響を除けば同13.1%増となりました。

2017年3月期業績予想について

上半期は低金利が継続する中で円高傾向が顕著となりました。国内においては、低金利政策が今後、中長期にわたって維持される可能性が強まっています。海外では、中国の景気動向や、米国の大統領選後の景気動向・金融政策など、不透明感が強まっており、内外の金融環境は今後も大きく変動する可能性が高いと考えています。今決算発表では、為替変動の影響を考慮し、第一生命の基礎利益(主に利息配当金収入)や第一フロンティア生命の経常収益(保険料収入)を下方修正しましたが、経常利益・純利益については下半期の金融環境がグループ損益にどのような影響を与えるかを慎重に見守る必要があり、据え置きとしています。

中期経営計画「D-Ambitious」の進捗について

第一生命ホールディングス株式会社は、10月1日に第一生命保険株式会社から商号変更し、持株会社となりました。第一生命グループは、この持株会社体制への移行を2010年4月の株式会社化・上場へ続く“新創業第2ステージ”と位置付け、グループを挙げて更なる成長加速に取り組んでいきます。持株会社体制への移行と同時に監査等委員会設置会社となりましたが、これは成長に向けて多様化・複線化するグループ会社の監督機能を強化し、持続的な価値創造の実現につなげるものです。

成長に向けた取り組み等については、11月22日に開催するアナリスト・投資家向け決算・経営説明会で説明しますが、2015～2017年度中期経営計画で掲げた戦略については、上半期においても進展が見られました。

(1)国内生命保険事業

- 第一生命が推進する保険ビジネスとテクノロジーの両面から生命保険独自のイノベーションを創出する取り組み「InsTech」が広がりを見せています。医療ビッグデータの解析等を生命保険事業に活用すべく、日本アイ・ビー・エム、日立、国立がん研究センター等と共同研究を開始するなどの進展が見られました。

(2)海外生命保険事業

- 第一生命ベトナムとベトナム郵便会社は、生命保険商品に関する15年間の独占販売契約を16年1月に締結し、3月よりベトナムの郵便局における保険販売を開始しております。また、16年3月には、第一生命と株式会社かんぼ生命の包括的業務提携、更に4月には第一生命・かんぼ生命・ベトナム郵便会社の3社間の協力関係がスタートし、ベトナムの郵便局における保険販売についてかんぼ生命からの各種支援も含めた協業体制の構築を進めております。
- 7月、カンボジアに駐在員事務所を開設しました。シンガポールの地域統括会社であるDLIAアジア・パシフィックを中核拠点として第一生命ベトナムなど域内のグループ会社との協働も視野に、カンボジアの生命保険市場参入に向けた検討を進めます。

- 8月、プロテクティブは米国でアセットプロテクション事業を手がけるユナイテッド・ステイツ・ワランティ・コーポレーションを買収することで合意、年内の取引完了を目指しています。プロテクティブの強みである買収事業での取組みがさらに進みました。
- インドにおける外資出資規制の緩和を受け、9月、スター・ユニオン・第一ライフに対する持分を26%から44%に引き上げました。

(3)資産運用・アセットマネジメント事業

- 第一生命とみずほフィナンシャル・グループはDIAMアセットマネジメントとみずほ信託銀行の資産運用部門、みずほ投信投資顧問及び新光投信を統合し、アジア最大となる資産運用会社「アセットマネジメントOne」を10月1日に設立しました。
- 同月、当社が約20%を出資する米国の資産運用会社ジャナス・キャピタル・グループと英国の資産運用会社、ヘンダーソン・グループが経営統合を目的とする合併契約を締結しました。当社は新会社に対して上限20%までの追加出資を可能とすることで両社と合意しています。これにより、第一生命グループのアセットマネジメント事業では日本・米国及び欧州の3大市場をカバーするグローバル3極体制が実現します。
- 第一生命では、「収益力強化」と「リスク分散」を実現するため、上場株式や債券などの伝統的資産とはリスク特性が異なる分野への投資を加速しています。7月、海外のプロジェクト・ファイナンスへの投資を目的とした国内初となる円建てインフラ・デット・ファンドへの投資を決定しました。また、独立行政法人国際協力機構やアフリカ開発銀行が発行する債券に投資するなど、ESGの視点を盛り込んだ資産運用も積極的に行いました。
- 10月、第一生命が保有する資産管理サービス信託銀行の株式の一部を、当社が業務提携するかんぽ生命保険に譲渡しました。資産運用事務基盤を共有化することで、環境変化に応じた資産運用手段の多様化・高度化を推進します。

規律ある資本配賦を通じた資本水準の確保・資本効率の向上

第一生命グループはエンタープライズ・リスク・マネジメント(ERM)に取り組んでいます。ERMとは、リスクを適正にコントロールし健全性確保を図る一方で、より高い利益が見込める事業等に資本を配賦していくことで資本効率・企業価値向上を実現する取り組みです。

上半期は、マイナス金利政策に伴い低金利が継続する中、デリバティブを活用した金利リスクの削減に取り組むとともに、一時払いの貯蓄性商品の販売コントロールや前納保険料の割引率の見直し等を実施しました。また7月に米ドル建永久劣後特約付社債25億ドルを発行する等、自己資本の一層の充実を図りました。

最後に

第一生命グループは、2010年4月の株式会社化を「新創業」と位置付け、以来、着実に成長への軌道を築いてきました。中期経営計画「D-Ambitious」2年目にあたる今期も、先人から受け継いできた絶えざる創造への挑戦をする「志」を、さらに高く大きな「Ambitious」へと強く持ち、大胆かつスピード感を持った事業展開によってステークホルダーの期待に応える持続的価値創造を実現していきます。今後とも皆さまのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

(決算の詳細につきましては、次頁からの解説をご覧ください。)

2017年3月期第2四半期決算解説

第一生命グループ業績ハイライト

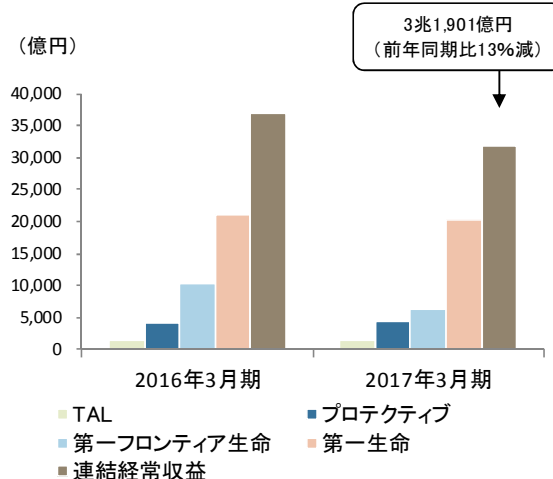
	(億円)				<参考>		
	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計(a)	前年同期比		2016/5/13 発表予想	2016/11/14 発表予想(b)	進捗率(a/b)
連結経常収益	36,833	31,901	△4,932	△13%	64,600	62,770	51%
連結経常利益	2,412	2,203	△208	△9%	4,060	4,060	54%
連結純利益 ⁽¹⁾	1,351	1,060	△291	△22%	1,970	1,970	54%

(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益を記載しています。

(1) 連結経常収益

第一生命グループの2017年3月期第2四半期における連結経常収益は3兆1,901億円(前年同期比13%減)となりました。低金利環境を受けて一時払いの貯蓄性保険商品の販売を抑制したことや、円高の進行により外貨建て証券からの利息配当金収入が減少したことが主な要因です。

経常収益 第2四半期累計実績

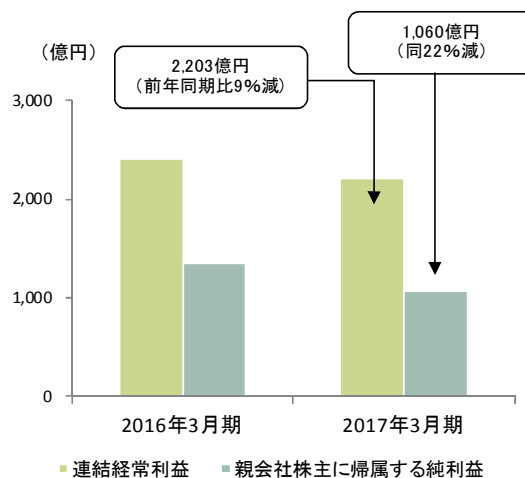


(2) 連結経常利益・純利益

連結経常利益は前年同期比9%減の2,203億円、親会社株主に帰属する中間純利益は同22%減の1,060億円となりました。

上半期における内外の金利低下の影響で第一フロンティア生命において責任準備金の繰入れ負担が発生(前年同期は戻し入れ)したことが主な要因です。ただ、国内生命保険事業の収支悪化の一部は海外事業における利益貢献の増加が相殺しています。このため、期初の通期予想に対しては、経常利益・純利益いずれも54%の進捗率となりました。

経常利益・純利益 第2四半期累計実績



第一生命グループ各社の業績

	【第一生命】 (億円)			【第一フロンティア生命】 (億円)			【米プロテクトティブ】 ⁽¹⁾ (百万米ドル)		【豪TAL】 ⁽¹⁾ (百万豪ドル)			【連結】 (億円)		
	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	前年 同期比	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	前年 同期比	16/3期 2Q累計 (2-6月)	17/3期 2Q累計 (1-6月)	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	前年 同期比	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	前年 同期比
経常収益	21,049	20,277	△4%	10,406	6,355	△39%	3,472	4,312	1,626	1,844	+13%	36,833	31,901	△13%
経常利益(△は損失)	1,840	1,826	△1%	324	△2	--	189	340	75	122	+62%	2,412	2,203	△9%
純利益 ⁽²⁾ (△は損失)	909	848	△7%	286	△17	--	126	227	56	78	+40%	1,351	1,060	△22%

(1) 米プロテクトティブおよび豪TALの数値は、各国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。連結の際には、それぞれ1米ドル=122.45円(16/3期2Q)、102.91円(17/3期2Q)、1豪ドル=84.06円(16/3期2Q)、77.04円(17/3期2Q)で円換算しています。

(2) 連結純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益を記載しています。

(3) グループ各社の業績

第一生命単体

一時払い商品の販売を抑制したことなどにより、保険料等収入が前年同期比7%減少しました。円高を背景に利息配当金収入も減少しましたが、金融環境の変動に対してヘッジ等により機動的に対応したことで相殺し、経常収益は同4%減にとどまりました。経常利益・純利益も微減となりました。

第一フロンティア生命

円建て商品と外貨建て商品の販売がともに減速し、保険料等収入は前年同期比45%減、経常収益は同39%減となりました。経常利益・純利益はそれぞれ損失へと転じましたが、これは主に、第1四半期において、国内外の金利低下に伴う責任準備金の繰入れ負担を経常費用として認識したためです。ただし、第2四半期には国内金利が上昇に転じたことや、利息配当金収入の増加により、第1四半期に計上した純損失の多くを相殺しました。

プロテクトティブ

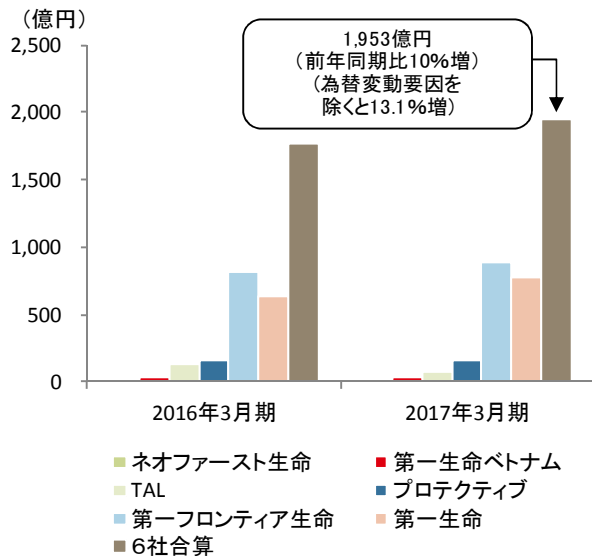
前年同期が5ヶ月間であるため、前年比較はありませんが、通期の純利益予想である300百万米ドルに向けて、良好な実績となりました。ただし、資産運用に関する利益には、同社が契約する再保険会社に帰属すべき一時的な利益が含まれています。この利益は今後、10年以上かけて再保険会社へ分割して支払を行います。

TAL

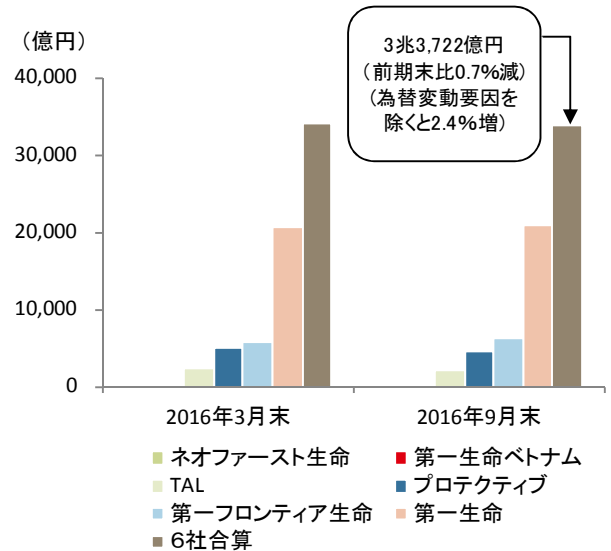
保険料等収入は、昨年度下半期に獲得した団体契約が貢献し、現地通貨建てで前年同期比15%増加、経常収益は同13%増加となりました。個人保険において保険金等支払が増加しましたが、現地金利の低下に伴う会計的なプラス要因で相殺し、純利益は同40%増となりました。

(4) グループ営業業績

第2四半期累計・新契約年換算保険料の推移



保有契約年換算保険料の推移



第一生命グループの新契約動向を、年換算保険料を用いて説明します。いずれも現地通貨建ての実績です。

- 第一生命単体の新契約は、平準払いの貯蓄商品が牽引し、前年同期比 22.9%の増加となりました。
- 第一フロンティア生命は、据置き期間の短い年金商品の販売が増加したため、同 9.3%増加しました。
- プロテクティブは、前年同期の5ヶ月間の実績に対して、増加しました。
- TALは既存契約の料率改定の影響を調整したため、同 31.0%減となりました。
- 第一生命ベトナムは販売チャネル強化の成果が現れ、同 69.3%増となりました。
- 以上から、グループ全体の新たな契約は同 10.5%増、為替変動要因を除けば同 13.1%増加しました。

第一生命グループの保有契約動向は以下のようになりました。

- 第一生命単体の保有契約は前期末比微増となりました。
- 第一フロンティア生命は同 8.8%増でした。
- プロテクティブは現地通貨建てでは増加したものの、円建てでは 12.7%減となりました。
- TALは現地通貨建てで同 2.6%減、円建てでは 13.0%減となりました。
- 第一生命ベトナムは現地通貨建てで保有契約を大きく積み上げましたが、円建てでは横ばいでした。
- 円高の影響により、グループ全体の保有契約は微減となりましたが、為替変動要因を除けば、グループ全体でもプラス成長を維持しました。

(5) ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに対して「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。第一生命単体のソルベンシー・マージン比率は、前期末に比べ約

50 ポイント上昇し、950.4%となりました。これは、有価証券含み損益の減少の影響を、7月に発行したドル建永久劣後特約付社債による資本調達などの影響が上回ったためです。連結ソルベンシー・マージン比率は 852.7%でした。

(6) グループ・エンベディッド・バリュー

	16/3末	16/9末	増減	
EEV	46,461	44,231	△2,230	

	16/3期 2Q累計 (再評価後) ⁽¹⁾	17/3期 2Q累計	増減	16/3期
新契約価値	1,435	452	△982	2,161

(1) 16/3 期 2Q 累計の新契約価値は、終局金利を用いた方法による再評価後の数値を記載しております。

エンベディッド・バリューとは、生命保険会社の企業価値を表す指標のひとつであり、既の実現した利益の蓄積である「修正純資産」と、既存の保険契約から将来的に生じる利益の見積もり額である「保有契約価値」の合計で示されます。

第一生命グループのエンベディッド・バリューは 4.4 兆円となりました。上半期の円高進行を背景に、3月末の 4.6 兆円から約 2,200 億円の減少となりました。また新契約価値は、前年同期との比較で金利が低下していることや、一時払い保険商品の販売を抑制したこと、円高の影響等から大幅な減少となりました。

(7) 業績予想

上半期の第一フロンティア生命における保険販売の進捗を踏まえ、2017 年3月期の業績予想は、連結経常収益を 6 兆 4,600 億円から 6 兆 2,770 億円へ 1,830 億円下方修正しました。

経常利益、純利益の予想については、据え置きとしました。今後の内外の金融・経済環境の変化がグループ損益に与える影響を見極める必要があるためです。

2017 年3月期の配当予想は前年比5円増配となる 40 円を据え置いています。

	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (予想)	増減
経常収益	73,339	62,770	△ 10,569
経常利益	4,181	4,060	△ 121
純利益 ^(※)	1,785	1,970	+184
			(円)
1株当たり ^(※) 純利益	150.53	167.64	+17.11
1株当たり 期末配当金	35	40	+5

(※) 本表における純利益とは、親会社株主に帰属する当期純利益をさします。また、1株当たり純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式、信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-ship®)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式及び自己名義株式を除いています。

(要約)連結損益計算書・連結貸借対照表

(億円)

	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減
経常収益	36,833	31,901	△4,932
保険料等収入	27,900	22,706	△5,193
資産運用収益	7,100	7,135	+35
うち利息・配当金等収入	5,305	5,230	△74
うち有価証券売却益	1,297	1,009	△287
うち金融派生商品収益	-	135	+135
その他経常収益	1,832	2,058	+225
経常費用	34,421	29,697	△4,723
うち保険金等支払金	19,664	17,898	△1,765
うち責任準備金等繰入額	5,571	2,185	△3,386
うち資産運用費用	3,982	4,252	+270
うち有価証券売却損	337	333	△4
うち有価証券評価損	57	101	+43
うち金融派生商品費用	228	-	△228
うち為替差損	1,731	2,935	+1,203
うち特別勘定資産運用損	1,208	390	△817
うち事業費	3,258	3,159	△99
経常利益	2,412	2,203	△208
特別利益	1	44	+43
特別損失	116	258	+142
契約者配当準備金繰入額	457	450	△7
税金等調整前中間純利益	1,839	1,539	△300
法人税等合計	487	478	△8
非支配株主に帰属する中間純利益	0	0	+0
親会社株主に帰属する中間純利益	1,351	1,060	△291

(億円)

	16/3末	16/9末	増減
資産の部合計	499,249	497,418	△1,830
うち現預金・コール	9,603	11,050	+1,447
うち買入金銭債権	2,392	2,214	△178
うち有価証券	415,600	412,864	△2,735
うち貸付金	37,155	35,733	△1,422
うち有形固定資産	11,788	11,618	△169
うち繰延税金資産	13	12	△0
負債の部合計	469,919	469,035	△883
うち保険契約準備金	438,940	431,213	△7,726
うち責任準備金	429,225	422,296	△6,928
うち社債	4,856	9,234	+4,378
うちその他負債	14,866	15,957	+1,091
うち退職給付に係る負債	4,438	4,439	+1
うち価格変動準備金	1,552	1,647	+95
うち繰延税金負債	2,707	2,719	+11
純資産の部合計	29,329	28,382	△946
うち株主資本合計	11,292	11,807	+515
うちその他の包括利益累計額合計	18,026	16,565	△1,461
うちその他有価証券評価差額金	18,400	18,054	△346
うち土地再評価差額金	△164	△186	△22

- 特別勘定資産運用損益は、責任準備金の戻入れ/繰入れで相殺されるため、経常利益に影響するものではありません。
- 為替差損(2,935億円)には、第一フロンティア生命で計上した為替差損2,499億円が含まれており、その多くは責任準備金の戻入れにより相殺されるため、経常利益に影響するものではありません。

本資料の問い合わせ先

第一生命ホールディングス株式会社

経営企画ユニット IRグループ

電話:050-3780-6930

免責事項

本資料の作成にあたり、第一生命ホールディングス株式会社（以下「当社」という。）は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

2017年3月期 第2四半期決算報告

2016/11/14

第一生命ホールディングス株式会社



Dai-ichi Life
Holdings



- 当第2四半期累計の連結業績は減収・減益。減収の要因は、低金利環境の継続を踏まえて一時払商品の販売抑制を行ったほか、円高の進行による外貨建証券からの利息配当収入が減少したため。減益の要因は、主に第一フロンティア生命において金利変動を背景とする会計的影響があったため。
- 第一フロンティア生命における保険販売の進捗を踏まえ、同社ならびに連結の経常収益の予想を下方修正。また、第一生命における円高の影響を踏まえ、同社ならびにグループの基礎利益の予想を下方修正。ただし、連結経常利益、連結純利益(親会社株主に帰属する純利益)および1株当たり株主配当の予想は据え置き。
- 2016年9月末のグループ・エンベディッド・バリューは、3月末比で減少し、約4.4兆円。主に円高の進行に伴い、第一生命の外貨建資産や海外事業のEVの円換算値が減少。ただし現地通貨ベースでは、海外各事業においてEVが増加。

第一生命グループ業績 - 業績ハイライト



Dai-ichi Life
Holdings

- 連結経常収益は、低金利環境を踏まえた販売抑制などにより、減少。これを踏まえ、第一フロンティア生命の経常収益および連結経常収益について、通期予想を下方修正。
- 連結経常利益・連結純利益⁽¹⁾は、円高の影響などで減少も、期初の通期予想対比で想定線。

(億円)

<参考>

	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計(a)	前年同期比	
連結経常収益	36,833	31,901	△4,932	△13%
第一生命単体	21,049	20,277	△772	△4%
連結経常利益	2,412	2,203	△208	△9%
第一生命単体	1,840	1,826	△14	△1%
連結純利益 ⁽¹⁾	1,351	1,060	△291	△22%
第一生命単体	909	848	△61	△7%

	2016/5/13 発表予想	2016/11/14 発表予想(b)	進捗率(a/b)
連結経常収益	64,600	62,770	51%
第一生命単体	37,960	37,960	53%
連結経常利益	4,060	4,060	54%
第一生命単体	3,240	3,240	56%
連結純利益 ⁽¹⁾	1,970	1,970	54%
第一生命単体	1,330	1,330	64%

(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益を記載しています。

第一生命グループ業績 - 連結主要業績



Dai-ichi Life
Holdings

連結損益計算書 (要約)⁽¹⁾

(億円)

	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減
経常収益	36,833	31,901	△4,932
保険料等収入	27,900	22,706	△5,193
資産運用収益	7,100	7,135	+35
うち利息・配当金等収入	5,305	5,230	△74
うち有価証券売却益	1,297	1,009	△287
うち金融派生商品収益	-	135	+135
その他経常収益	1,832	2,058	+225
経常費用	34,421	29,697	△4,723
うち保険金等支払金	19,664	17,898	△1,765
うち責任準備金等繰入額	5,571	2,185	△3,386
うち資産運用費用	3,982	4,252	+270
うち有価証券売却損	337	333	△4
うち有価証券評価損	57	101	+43
うち金融派生商品費用	228	-	△228
うち為替差損 ⁽²⁾	1,731	2,935	+1,203
うち特別勘定資産運用損	1,208	390	△817
うち事業費	3,258	3,159	△99
経常利益	2,412	2,203	△208
特別利益	1	44	+43
特別損失	116	258	+142
契約者配当準備金繰入額	457	450	△7
税金等調整前中間純利益	1,839	1,539	△300
法人税等合計	487	478	△8
非支配株主に帰属する中間純利益	0	0	+0
親会社株主に帰属する中間純利益	1,351	1,060	△291

連結貸借対照表 (要約)

(億円)

	16/3末	16/9末	増減
資産の部合計	499,249	497,418	△1,830
うち現預金・コール	9,603	11,050	+1,447
うち買入金銭債権	2,392	2,214	△178
うち有価証券	415,600	412,864	△2,735
うち貸付金	37,155	35,733	△1,422
うち有形固定資産	11,788	11,618	△169
うち繰延税金資産	13	12	△0
負債の部合計	469,919	469,035	△883
うち保険契約準備金	438,940	431,213	△7,726
うち責任準備金	429,225	422,296	△6,928
うち社債	4,856	9,234	+4,378
うちその他負債	14,866	15,957	+1,091
うち退職給付に係る負債	4,438	4,439	+1
うち価格変動準備金	1,552	1,647	+95
うち繰延税金負債	2,707	2,719	+11
純資産の部合計	29,329	28,382	△946
うち株主資本合計	11,292	11,807	+515
うちその他の包括利益累計額合計	18,026	16,565	△1,461
うちその他有価証券評価差額金	18,400	18,054	△346
うち土地再評価差額金	△164	△186	△22

- (1) 特別勘定資産運用損益は、責任準備金の戻入れ/繰入れで相殺されるため、経常利益に影響するものではありません。
- (2) 為替差損(2,935億円)には、第一フロンティア生命で計上した為替差損2,499億円が含まれており、その多くは責任準備金の戻入れにより相殺されるため、経常利益に影響するものではありません。

第一生命グループ業績 - グループ各社の業績



Dai-ichi Life
Holdings

	【第一生命】			【第一フロンティア生命】			【米プロテクティブ】 ⁽¹⁾		【豪TAL】 ⁽¹⁾			【連結】		
	(億円)			(億円)			(百万米ドル)		(百万豪ドル)			(億円)		
	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	前年 同期比	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	前年 同期比	16/3期 2Q累計 (2-6月)	17/3期 2Q累計 (1-6月)	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	前年 同期比	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	前年 同期比
経常収益	21,049	20,277	△4%	10,406	6,355	△39%	3,472	4,312	1,626	1,844	+13%	36,833	31,901	△13%
保険料等収入	14,071	13,142	△7%	9,919	5,406	△45%	2,130	2,693	1,449	1,662	+15%	27,900	22,706	△19%
資産運用収益	5,459	5,262	△4%	486	615	+27%	1,149	1,412	14	138	+863%	7,100	7,135	+0%
経常費用	19,209	18,450	△4%	10,082	6,357	△37%	3,282	3,971	1,550	1,722	+11%	34,421	29,697	△14%
保険金等支払金	13,631	11,453	△16%	2,960	3,102	+5%	1,865	2,393	937	1,135	+21%	19,664	17,898	△9%
責任準備金等繰入額	267	1,613	+503%	4,106	6	△100%	929	807	168	173	+3%	5,571	2,185	△61%
資産運用費用	1,624	1,304	△20%	2,446	2,896	+18%	60	284	90	22	△76%	3,982	4,252	+7%
事業費	2,015	2,088	+4%	510	319	△37%	308	384	301	334	+11%	3,258	3,159	△3%
経常利益(△は損失)	1,840	1,826	△1%	324	△2	--	189	340	75	122	+62%	2,412	2,203	△9%
特別利益	1	44	+3,511%	--	--	--	--	0	--	--	--	1	44	+3,326%
特別損失	104	243	+134%	12	15	+23%	--	0	0	--	△100%	116	258	+122%
純利益 ⁽²⁾ (△は損失)	909	848	△7%	286	△17	--	126	227	56	78	+40%	1,351	1,060	△22%

- (1) 米プロテクティブおよび豪TALの数値は、各国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。
連結の際には、それぞれ1米ドル=122.45円(16/3期2Q)、102.91円(17/3期2Q)、1豪ドル=84.06円(16/3期2Q)、77.04円(17/3期2Q)で円換算しています。
- (2) 連結純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益を記載しています。

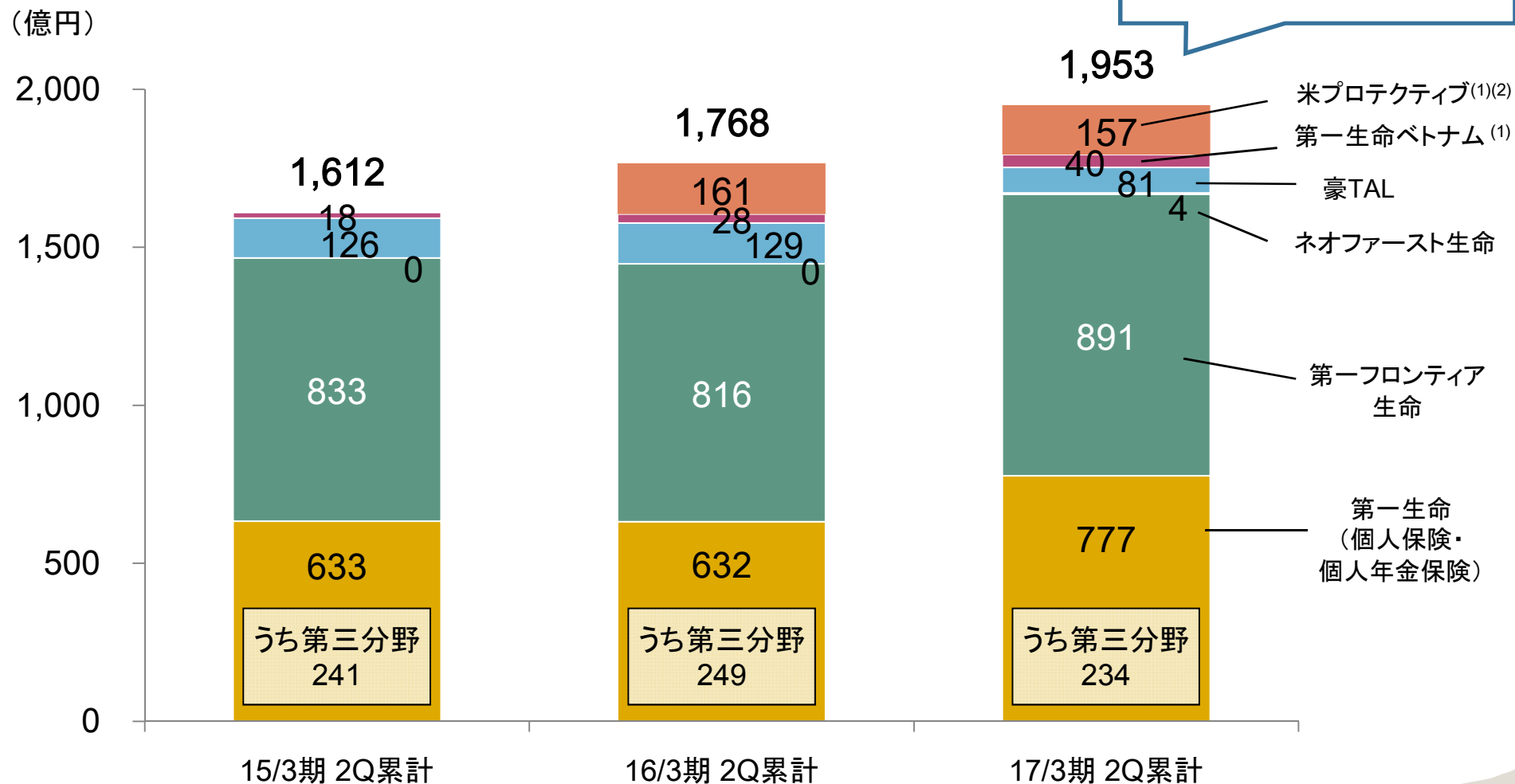
第一生命グループ業績 - 新契約動向(年換算保険料ベース)



Dai-ichi Life Holdings

第一生命グループの新契約年換算保険料

前年同期比: + 10.5%
(為替変動要因除くと+ 13.1%)

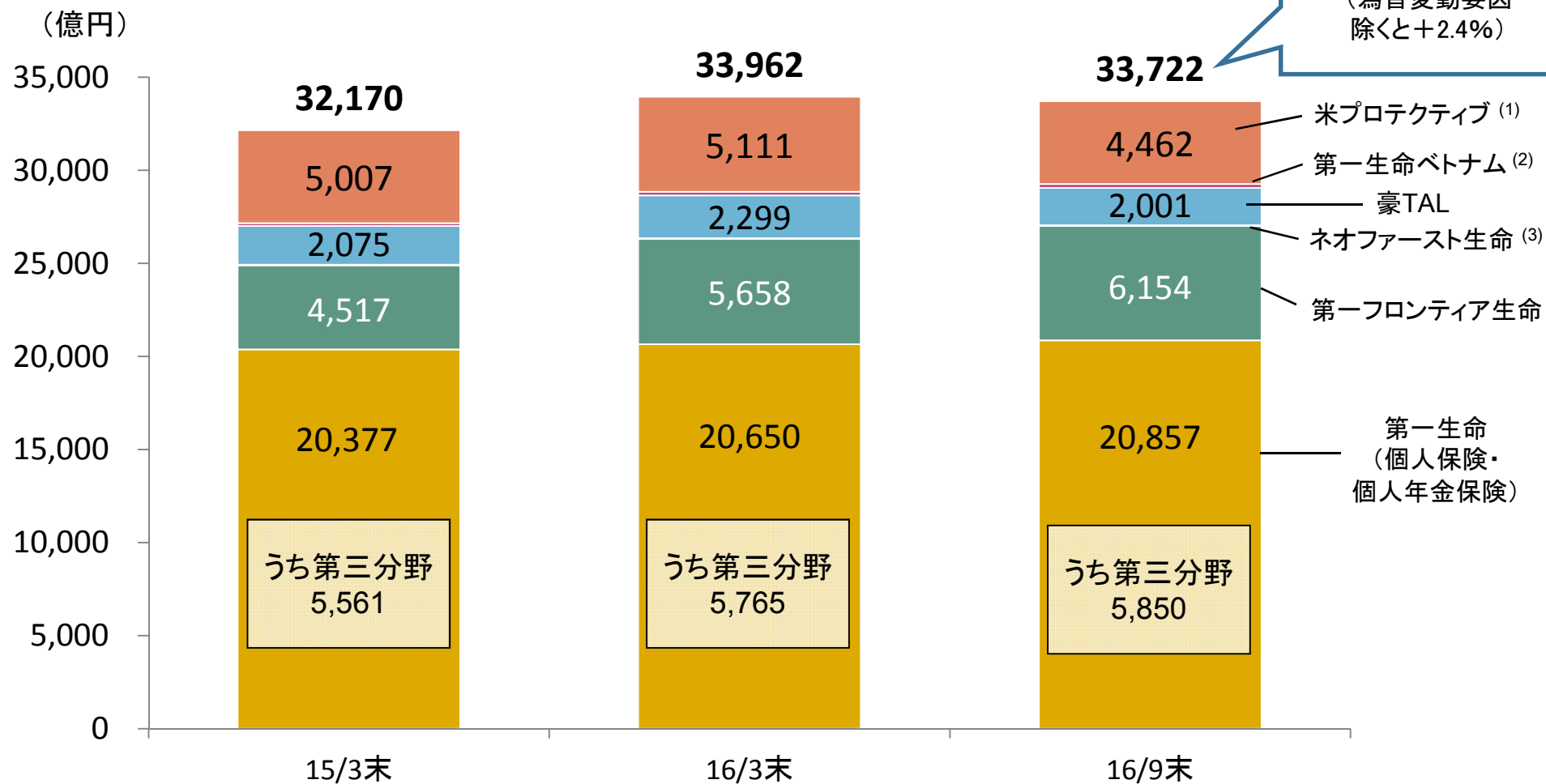


(1) 米プロテクトティブ、第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。
 (2) 米プロテクトティブの実績は、16/3期2Q累計、17/3期2Q累計のみを記載しています。



第一生命グループ業績 - 保有契約動向(年換算保険料ベース)

第一生命グループの保有契約年換算保険料

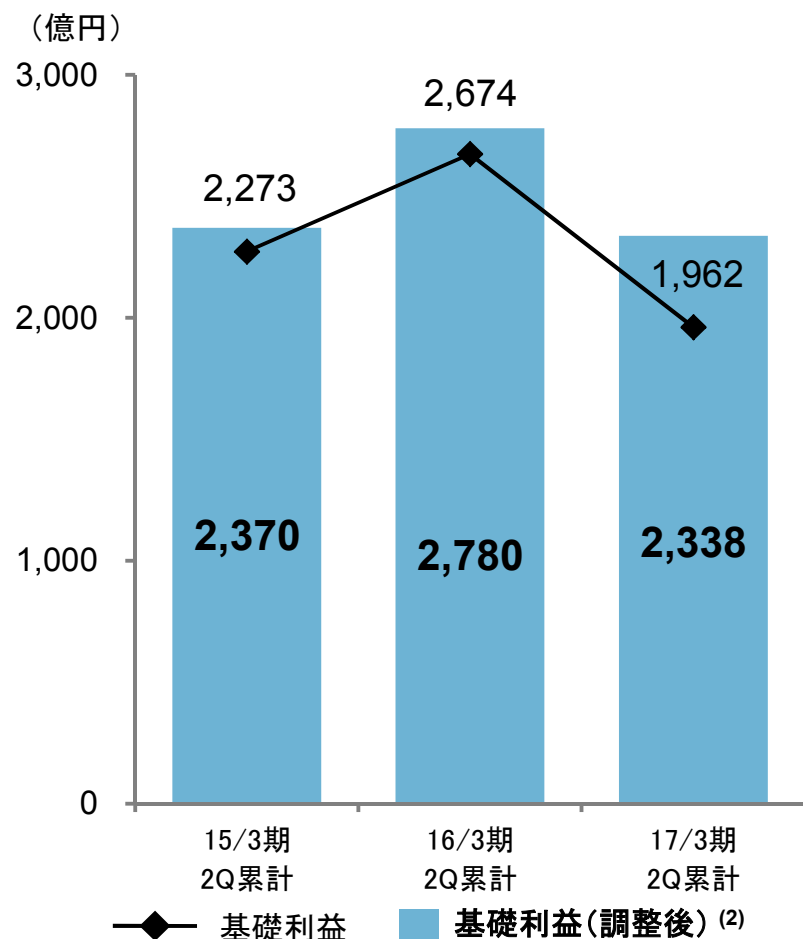


(1) 米プロテクトィブの決算日は12月31日です。15/3末の実績は完全子会社化(2015年2月1日)時点の数値を記載しています。
 (2) 第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。15/3末、16/3末、16/9末の実績はそれぞれ155億円、203億円、203億円です。
 (3) ネオファースト生命の15/3末、16/3末、16/9末の実績は、それぞれ37億円、39億円、43億円です。

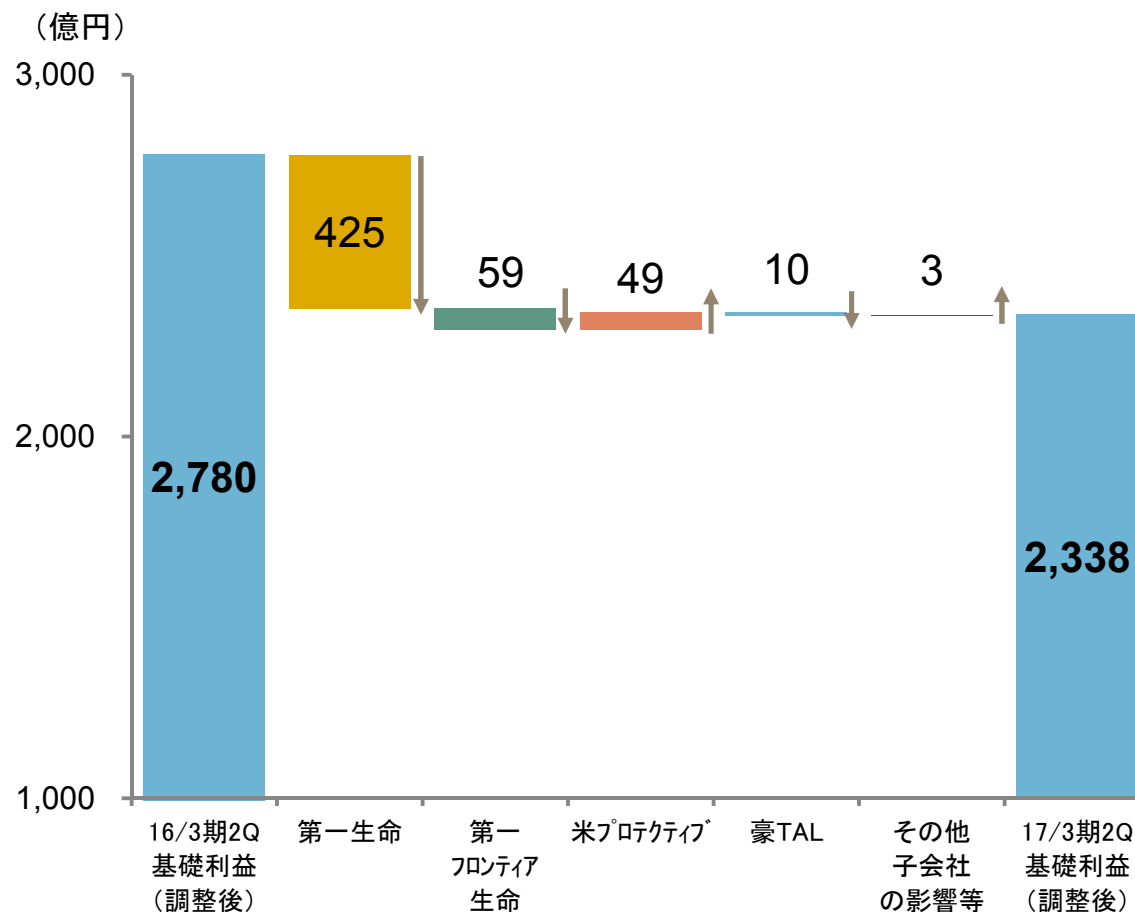


第一生命グループ業績 - 基礎利益の状況

基礎利益 (1)(2)



基礎利益(調整後)の変動要因 (1)(2)



(1) 第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命(15/3期7-9月、16/3期2Q、17/3期2Qのみ)の基礎利益、米プロテクトティブの税引前営業利益(16/3期2Q、17/3期2Qのみ)、TALの修正利益(税引前換算)、第一生命ベトナムの税引前利益を合算し、第一生命グループ内の内部取引の一部を相殺

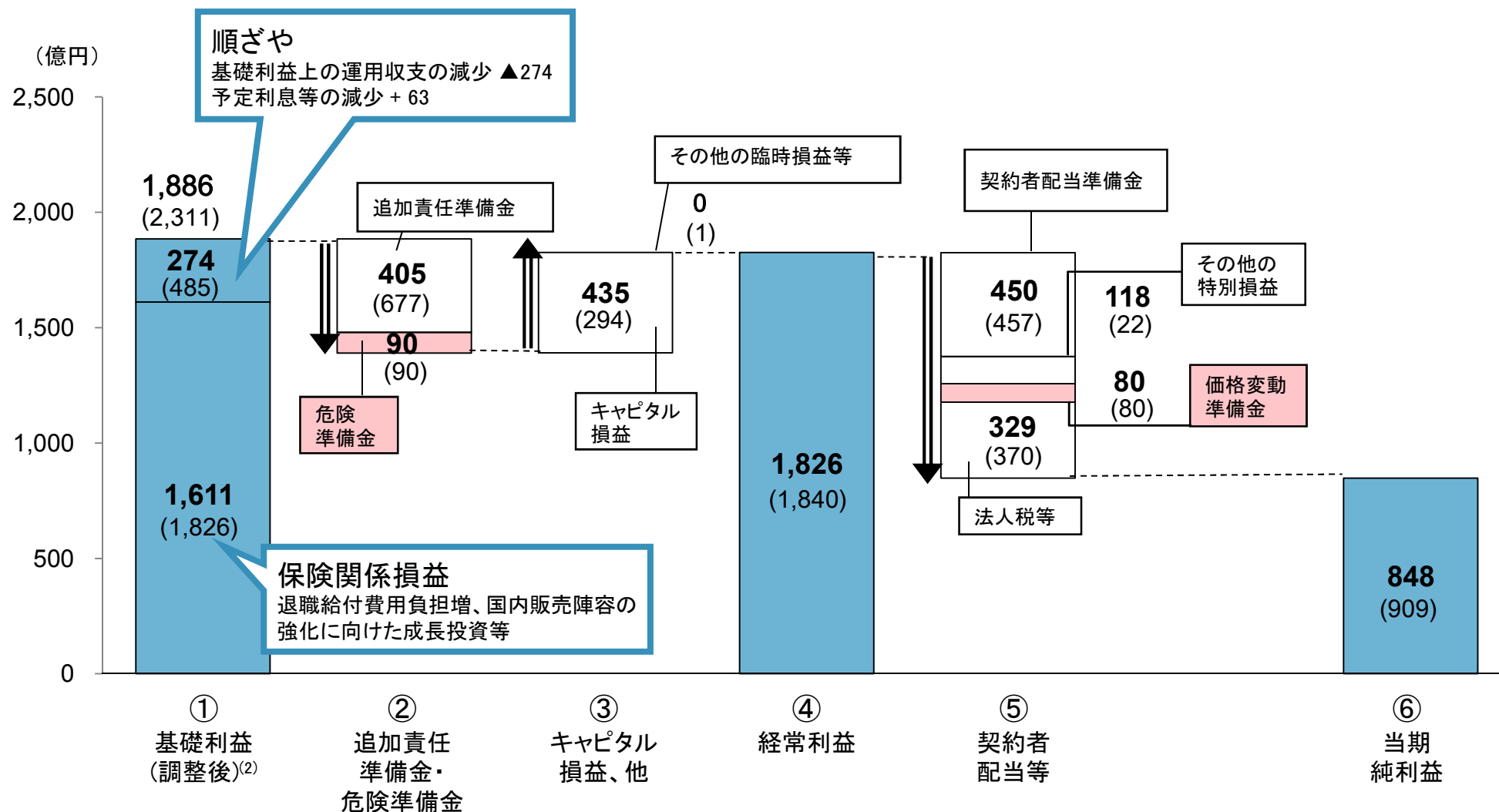
(2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額 ± 定額保険の市場価格調整に係る責任準備金繰入(戻入)額。ただし、市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、為替差損益勘定で相殺され、経常利益に影響を及ぼさない部分を除く

第一生命単体業績 - 当期純利益の状況 (1)

第一生命単体の基礎利益の通期予想は、参考データ(P28)をご覧ください。



Dai-ichi Life Holdings



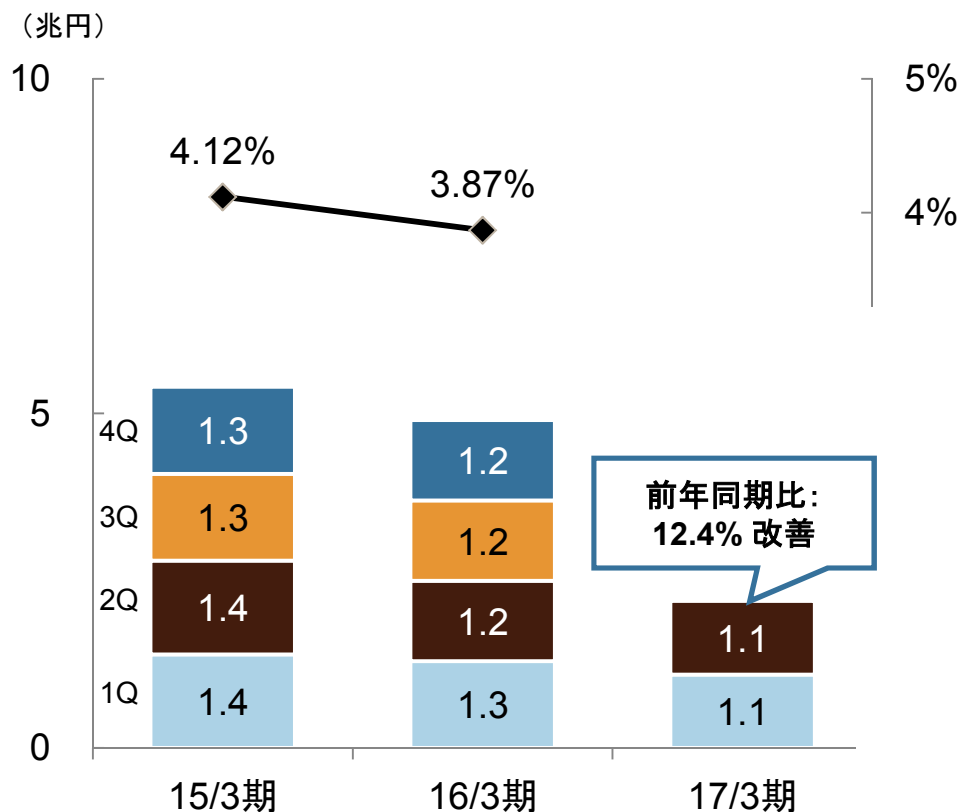
(1) 前年同期の数値を()内に記載しています。

(2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額 ± 定額保険の市場価格調整に係る責任準備金繰入(戻入)額。ただし、市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、為替差損益勘定で相殺され、経常利益に影響を及ぼさない部分を除く。



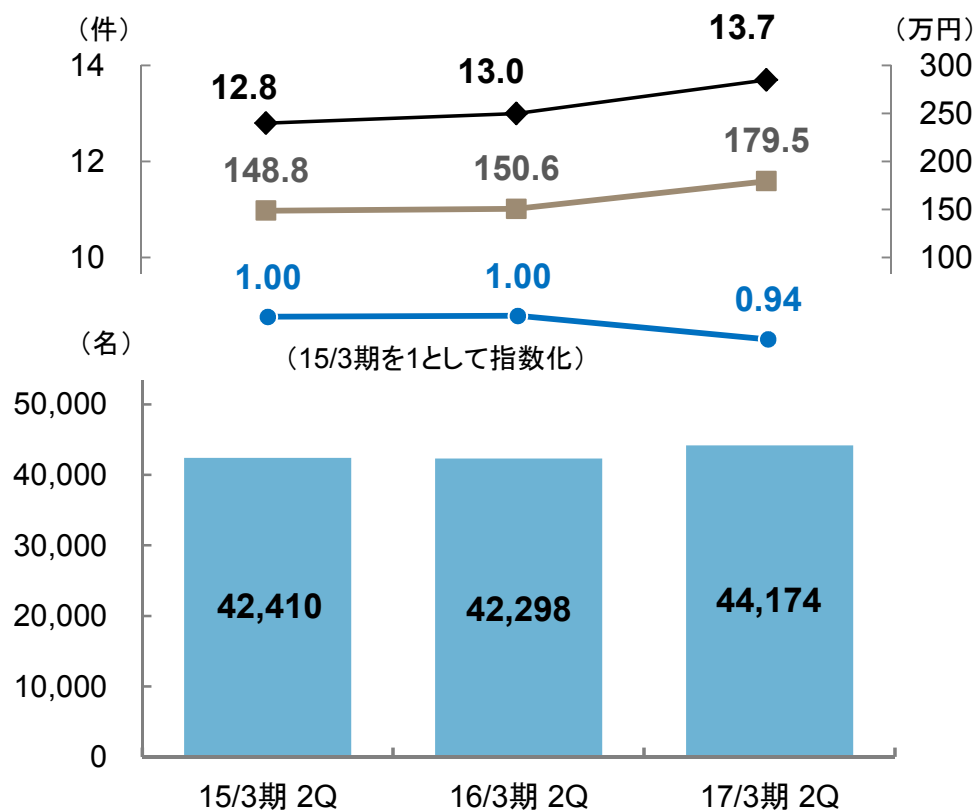
第一生命単体業績 - 解約失効高、営業職員数

解約失効高(個人保険・個人年金)



◆ 解約失効率(右軸)

営業職員数および生産性



■ 営業職員数(1)

◆ 一人あたり新契約件数(2)

■ 一人あたり新契約年換算保険料(2)

● 一人あたり営業収益価値(2)

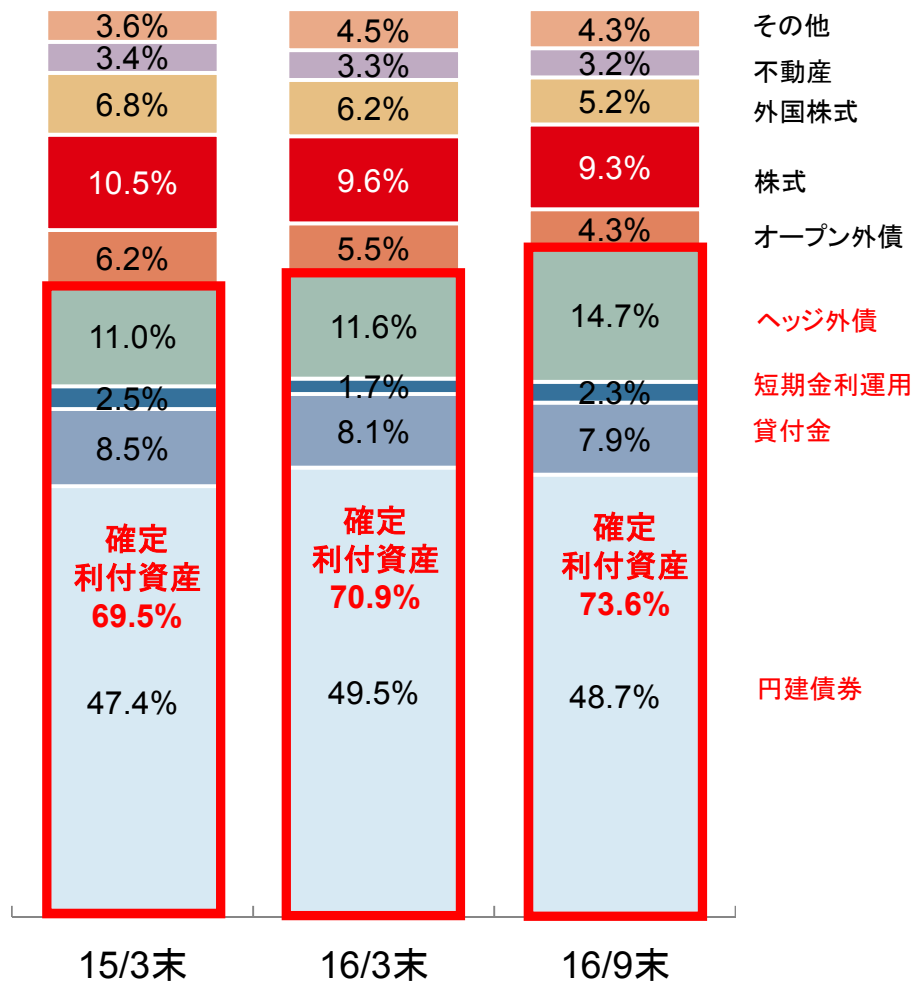
(1) 営業職員については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。

(2) 各期間における新契約件数、年換算保険料及び営業収益価値を分子、営業職員数(補助的業務に従事する者を除く)の平均値を分母として計算しています。営業収益価値とは、営業部門の獲得収益を表す当社独自の指標であり、経済環境の変動要因を除外した、事業費等コスト控除前の新契約価値に相当します。

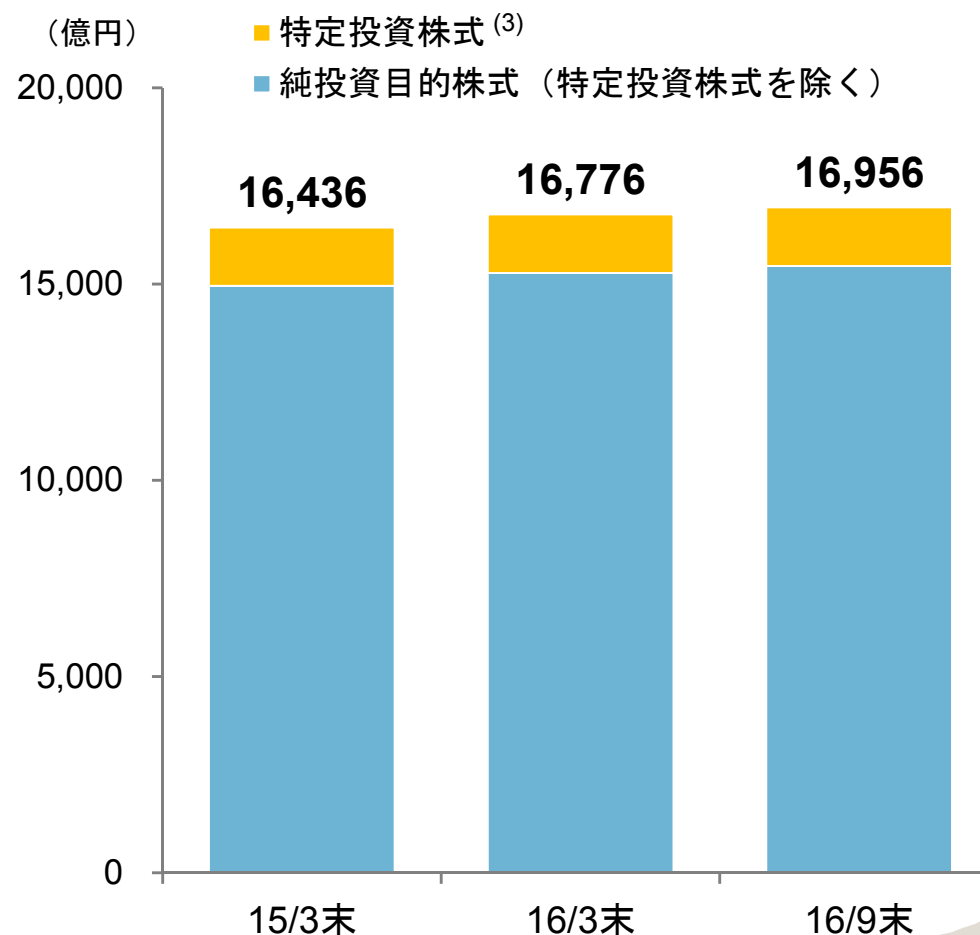


第一生命単体業績 - 一般勘定資産運用の状況 (1)

資産の構成 (一般勘定) (1)



国内株式の簿価 (2)



(1) 貸借対照表価額ベース

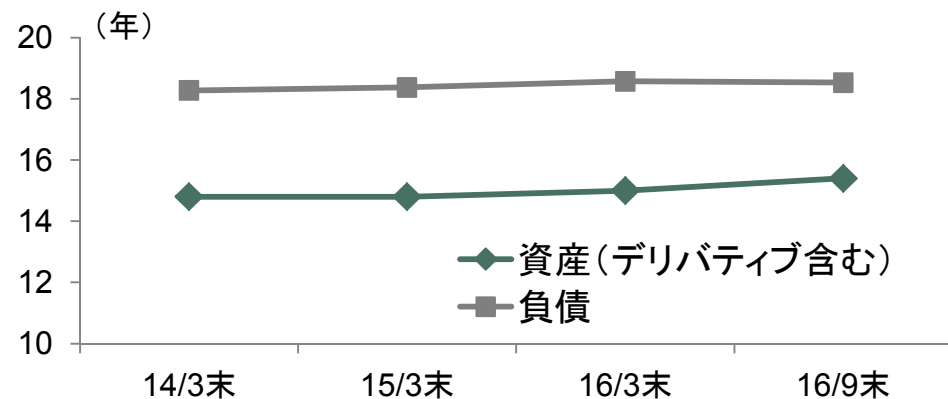
(2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)。

(3) 純投資目的以外の目的で保有する株式(非上場国内株式、みなし保有株式は除く)。

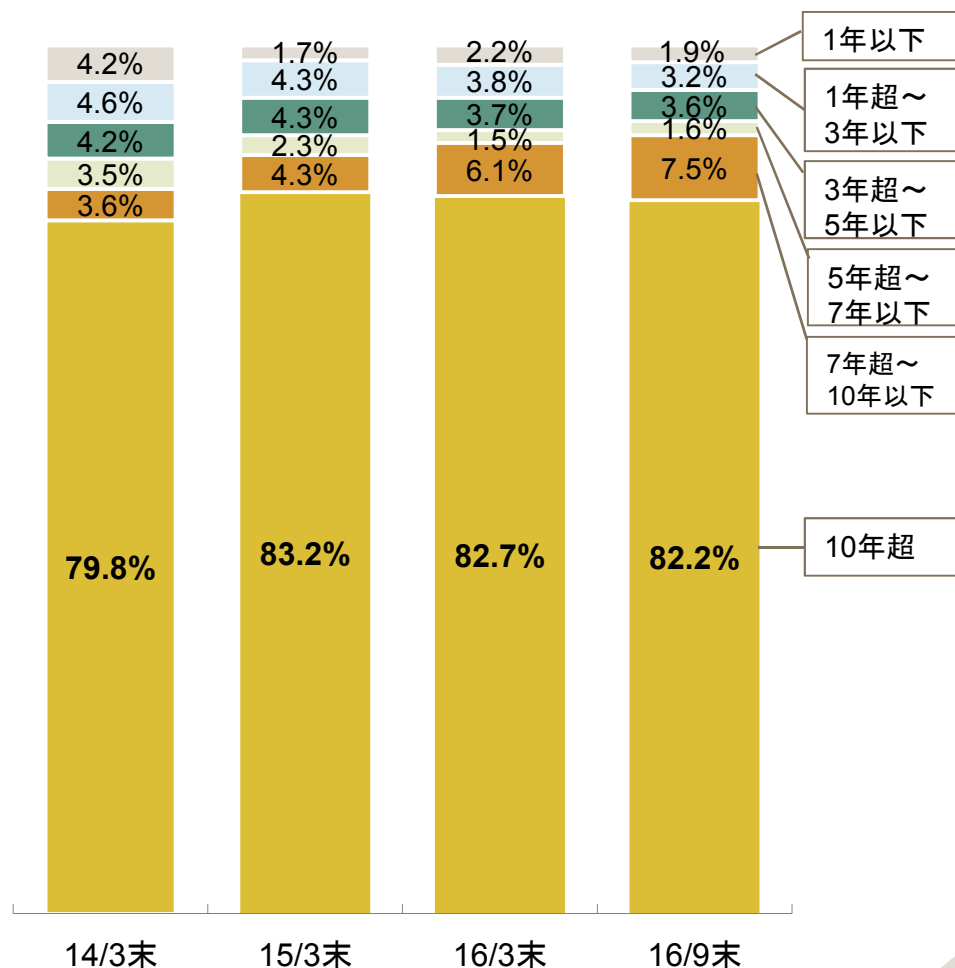


第一生命単体業績 - 一般勘定資産運用の状況 (2)

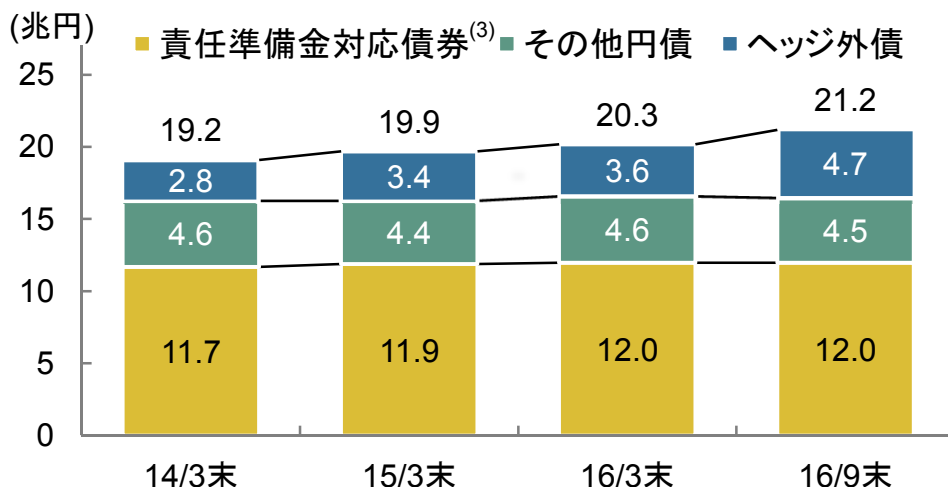
確定利付資産と負債のデュレーション (1)



国内債券の残存期間 (4)



債券の積み増し状況 (2)



(1) 一般勘定資産のうち主に個人保険・個人年金に関わる経理区分の保険負債と円建確定利付資産(デリバティブ含む)のデュレーション
 (2) 一般勘定資産のうち円建債券とヘッジ外債を対象とする。簿価ベース
 (3) 責任準備金対応債券とは、保険会社だけに認められた区分で、一定の要件を満たせば償却原価法による評価が認められている。
 (4) 一般勘定資産のうち国内債券を対象とする。貸借対照表価額ベース

第一生命単体業績 - 健全性指標



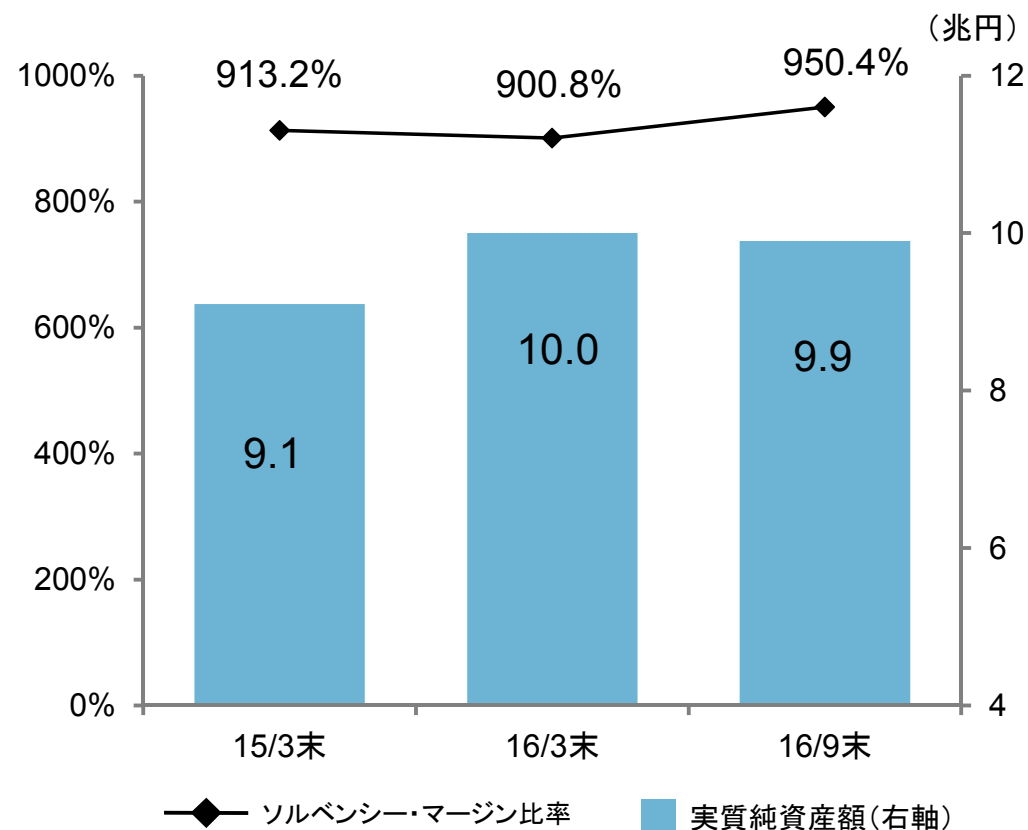
Dai-ichi Life Holdings

含み損益(一般勘定)

(億円)

	16/3末	16/9末	増減
有価証券	62,120	60,120	△1,999
国内債券	40,229	41,415	+1,185
国内株式	13,128	12,308	△819
外国債券	6,787	5,982	△805
外国株式	1,720	390	△1,329
不動産	1,303	1,366	+63
その他共計	63,346	61,713	△1,632

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額



<参考> 連結ソルベンシー・マージン比率:

2016年9月末 852.7%



収支の状況

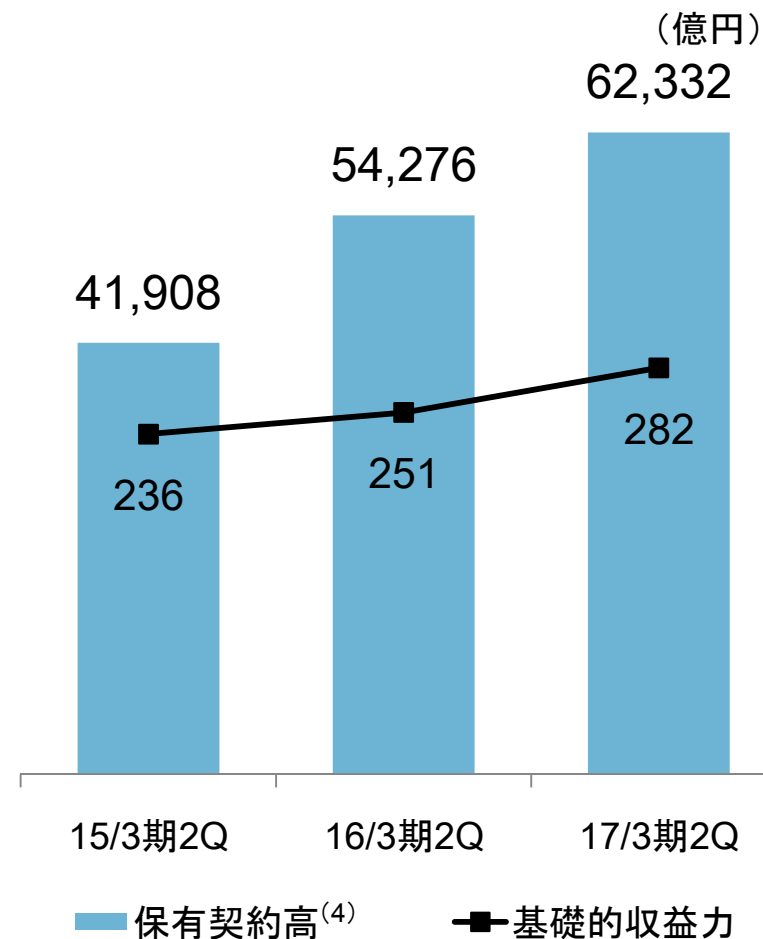
	(億円)	
	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計
経常収益	10,406	6,355
うち保険料等収入 ⁽¹⁾	9,919	5,406
うち変額商品	940	301
うち円建定額商品	1,604	89
うち外貨建定額商品	6,323	4,351
うち資産運用収益	486	615
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益(A)	68	75
経常費用	10,082	6,357
うち責任準備金等繰入額(△は戻入) ⁽²⁾	4,106	△ 326
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(B)	281	293
うち市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入額(C) ⁽³⁾	△ 173	84
うち危険準備金繰入額(D)	△ 74	△ 2
うち資産運用費用	2,446	2,896
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失(E)	-	-
経常利益(△は損失)	324	△ 2
純利益(△は損失)	286	△ 17
純利益 - (A) + (B) + (C) + (D) + (E)	251	282

(1) 定額部分と変額部分を組み合わせた商品は定額商品に分類

(2) 17/3期2Qの責任準備金等繰入額(△は戻入)には、支払備金繰入額とその他経常収益に含まれる責任準備金戻入額の金額を記載しています。

(3) 市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、為替差損益勘定で相殺されて、経常利益に影響を及ぼさない部分を除く。

保有契約高と基礎的収益力



(4) 保有契約高は各期間の末日時点



主要業績 (1)(2)

(百万米ドル)

	16/3期 2Q累計 (2-6月)	17/3期 2Q累計 (1-6月)	
	実績	予算	実績
生保事業	10.0	37.9	38.2
買収事業	73.9	116.3	113.9
年金事業	87.3	111.0	110.5
ステーブルバリュー事業	15.4	14.5	29.6
アセットプロテクション事業	9.9	12.4	10.7
コーポレート	△ 7.9	△ 34.8	△ 30.4
税引前営業利益	188.8	257.3	272.6
キャピタル損益(運用収支)	△ 158.6	n.a.	184.0
キャピタル損益(金融派生商品損益)	159.5	n.a.	△ 116.2
法人税等	△ 63.0	△ 87.5	△ 113.0
当期利益	126.7	148.9	227.4

<参考>

	15/6末		16/6末
為替レート(米ドル)	122.45	n.a.	102.91

- (1) 米プロテクティブの決算日は12月31日です。16/3期2Q累計の実績は、子会社化(2015年2月1日)以降、同年6月までの5ヶ月間の実績です。
- (2) 税引前営業利益(Pre-tax Operating Earnings)とは、当期利益から資産運用やデリバティブにおけるキャピタル損益を控除した利益指標です。

セグメント別 予算・実績比較

【生保事業】

- 予算対比で危険差益が悪化したが、良好な運用収支等により予算どおりの進捗

【買収事業】

- 予算対比で運用収支や事業費が良好だったが、危険差益の悪化や解約の増加により予算を僅かに未達

【年金事業】

- 予算対比で変額年金に係るフィー収入、利ざやなどが減少したが、危険差益は良好であり予算どおりの進捗

【ステーブルバリュー事業】

- 予算対比で良好な利ざやなどを確保したことで予算を大幅達成ペースで進捗

【アセットプロテクション事業】

- 一部の商品において、予算対比で支払が増加し、予算未達ペースで進捗



連結子会社業績 - 豪TAL (1)

主要業績

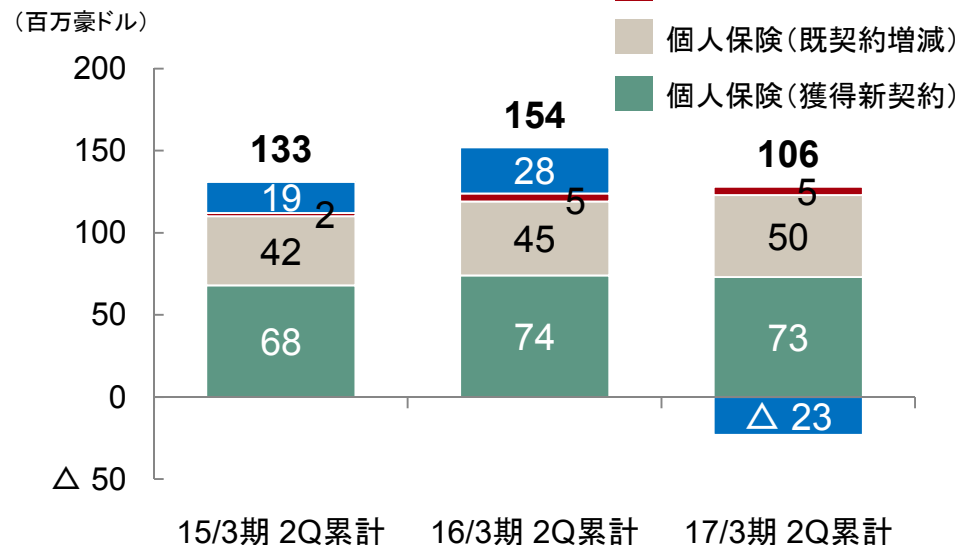
(百万豪ドル)			
	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	前年 同期比
経常収益 (2)	1,626	1,844	+13%
うち保険料等収入 (2)	1,449	1,662	+15%
経常利益 (2)	75	122	+62%
純利益(A) (2)	56	78	+40%
修正額(B)	25	1	
うち負債割引率の変化	0	△ 9	
うち償却負担	10	10	
その他	15	0	
修正利益=(A)+(B) (Underlying profit)	81	79	△2%

<参考>

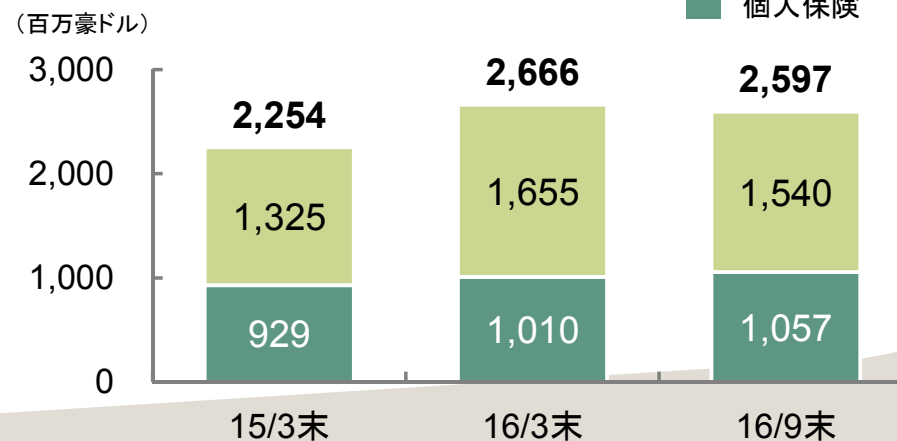
	15/9末	16/9末
為替レート(豪ドル)	84.06円	77.04円

- (1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値
 (2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正額及び修正利益を除く)。

新契約年換算保険料



保有契約年換算保険料





第一生命グループ業績予想 - 2017年3月期業績予想

- 当第2四半期累計の業績は、概ね計画に沿った進捗。ただし、第一フロンティア生命における保険販売の進捗や、第一生命における円高の影響を踏まえ、業績予想を一部下方修正。
- 経常利益、純利益の予想は据え置き。1株当たり配当金も予想を据え置き。

	(億円)			(参考)
	16/3期	17/3期(予) ※2016/11/14 発表予想	増減	17/3期(予) ※2016/5/13 発表予想
連結経常収益	73,339	62,770	△ 10,569	64,600
第一生命単体 ⁽¹⁾	42,657	37,960	△ 4,697	37,960
第一フロンティア生命	19,675	12,180	△ 7,495	14,010
プロテクティブ(百万米ドル)	6,784	8,460	+ 1,675	8,460
TAL(百万豪ドル)	3,231	3,900	+ 668	3,900
連結経常利益	4,181	4,060	△ 121	4,060
第一生命単体	3,442	3,240	△ 202	3,240
第一フロンティア生命	296	210	△ 86	210
プロテクティブ(百万米ドル)	399	460	+ 60	460
TAL(百万豪ドル)	152	180	+ 27	180
連結純利益⁽²⁾	1,785	1,970	+ 184	1,970
第一生命単体	1,291	1,330	+ 38	1,330
第一フロンティア生命	243	150	△ 93	150
プロテクティブ(百万米ドル)	268	300	+ 31	300
TAL(百万豪ドル)	119	120	+ 0	120
1株当たり配当金	35円	40円	+5円	40円

(参考: 基礎利益)

第一生命グループ	5,351	4,600程度	△ 751	5,000程度
第一生命単体	4,654	3,500程度	△ 1,154	3,800程度

(1) 持株会社体制移行に伴う第一生命単体の考え方につきましては、詳しくは29ページをご覧ください。

(2) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。



EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (1)

- 2016年9月末のグループEEVは、主に円高の影響により、前期末比で減少。
- 第一フロンティア生命、プロテクティブ、TALなど、成長事業のEV(現地通貨ベース)は前期末比で増加。

第一生命グループのEEV

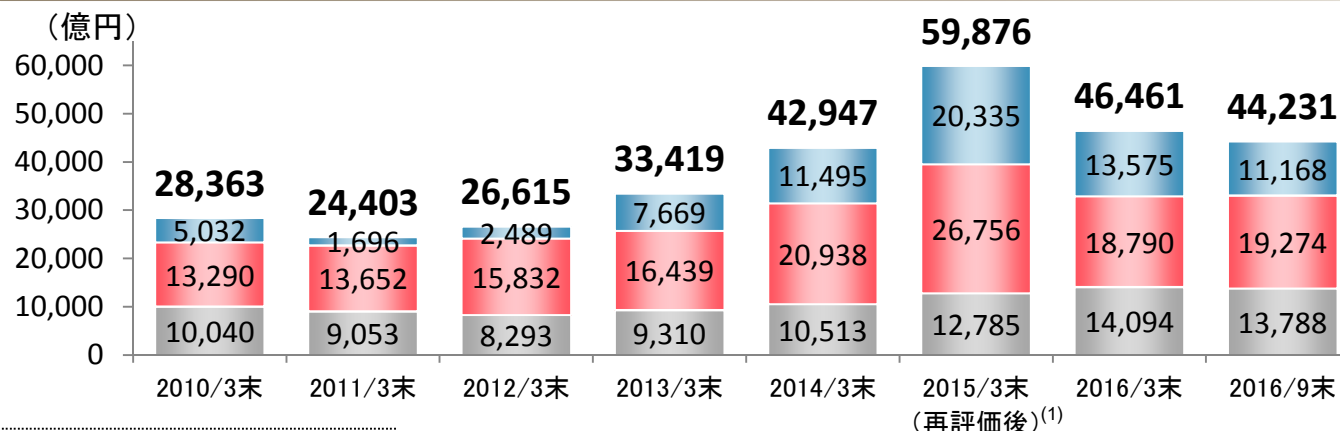
	16/3末	16/9末	増減
EEV	46,461	44,231	△2,230
修正純資産	62,873	62,283	△590
保有契約価値	△ 16,412	△ 18,052	△1,639

	16/3期 2Q累計 (再評価後) ⁽¹⁾	17/3期 2Q累計	増減	16/3期
新契約価値	1,435	452	△982	2,161

資産・負債の対応を考慮した再分類

	16/3末	16/9末
EEV	46,461	44,231
確定利付資産以外の含み損益等 ⁽²⁾	13,575	11,168
保有契約価値+確定利付資産の含み損益等 ⁽³⁾	18,790	19,274
純資産等+負債中の内部留保 ⁽⁴⁾	14,094	13,788

第一生命グループのEEV推移【資産・負債の対応を考慮した再分類】



保有契約価値+含み損益等
: 保険契約の保有により生じる将来利益

確定利付資産以外の含
み損益等⁽²⁾

保有契約価値+確定利
付資産の含み損益等⁽³⁾

純資産等
+ 負債中の内部留保⁽⁴⁾
: 実現利益の累積額に相当

(1) 16/3期2Q累計の新契約価値・2015/3末のEVは、終局金利を用いた方法による再評価後の数値を記載しております。
 (2) 第一生命が保有する確定利付資産以外の資産(株式、外貨建債券(ヘッジ外債を除く)、不動産等)の含み損益等の額を計上しています。
 (3) 保有契約価値に、第一生命の確定利付資産ならびに第一フロンティア生命およびネオファースト生命の資産の含み損益等を加算・調整した額を計上しています。本項目は、未実現利益のうち、主に金利の影響を受ける部分であり、金利水準等の変化に応じた、保有契約価値および確定利付資産の含み損益等の変動額は、お互いに相殺関係にあります。
 (4) グループEEVの修正純資産から含み損益を除いた額を計上しています。

EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (2)



Dai-ichi Life
Holdings

第一生命

(億円)

	16/3末	16/9末	増減
EEV	44,414	42,588	△1,826
修正純資産	64,833	64,620	△213
保有契約価値	△ 20,419	△ 22,032	△1,612

	16/3期 2Q累計 (再評価後) ⁽¹⁾	17/3期 2Q累計	増減	16/3期
新契約価値	1,012	293	△718	1,346

第一フロンティア生命

(億円)

	16/3末	16/9末	増減
EEV	3,032	3,085	+53
修正純資産	1,838	2,258	+420
保有契約価値	1,194	827	△366

	16/3期 2Q累計 (再評価後) ⁽¹⁾	17/3期 2Q累計	増減	16/3期
新契約価値	327	80	△246	532

ネオファースト生命

(億円)

	16/3末	16/9末	増減
EEV	414	406	△7
修正純資産	277	249	△28
保有契約価値	136	157	+20

(1) 16/3期2Q累計の新契約価値は、終局金利を用いた方法による再評価後の数値を記載しております。

EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (3)



プロテクティブ (億円)

	15/12末	16/6末	増減
EEV	5,512	5,220	△292
修正純資産	4,149	3,463	△685
保有契約価値	1,363	1,756	+393

プロテクティブ(米ドルベース) (百万米ドル)

	15/12末	16/6末	増減
EEV	4,570	5,072	+501
修正純資産	3,440	3,365	△74
保有契約価値	1,130	1,707	+576

	15/2-6月 累計	16/1-6月 累計
新契約価値	22	8

15/2-12月 累計
56

	15/2-6月 累計	16/1-6月 累計
新契約価値	18	8

15/2-12月 累計
46

15/2-6月累計の新契約価値: 15/6末の為替レート(1米ドル=122.45円)を使用
 15/12末EEV・15/2-12月累計の新契約価値: 15/12末の為替レート(1米ドル=120.61円)を使用
 16/6末EEV・16/1-6月累計の新契約価値: 16/6末の為替レート(1米ドル=102.91円)を使用

TAL (億円)

	16/3末	16/9末	増減
EEV	2,673	2,515	△157
修正純資産	1,359	1,276	△83
保有契約価値	1,313	1,238	△74

TAL(豪ドルベース) (百万豪ドル)

	16/3末	16/9末	増減
EEV	3,099	3,265	+166
修正純資産	1,576	1,657	+80
保有契約価値	1,522	1,608	+85

	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減
新契約価値	73	70	△2

16/3期
225

	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減
新契約価値	86	91	+4

16/3期
262

16/3期2Q累計の新契約価値: 15/9末の為替レート(1豪ドル=84.06円)を使用
 16/3末EEV・16/3期の新契約価値: 16/3末の為替レート(1豪ドル=86.25円)を使用
 16/9末EEV・17/3期2Q累計の新契約価値: 16/9末の為替レート(1豪ドル=77.04円)を使用



参考データ

参考データ - 第一生命グループ業績 - グループ各社の貸借対照表



Dai-ichi Life
Holdings

	【第一生命】 (億円)	【第一フロンティア生命】 (億円)	【米プロテクトティブ】 ⁽¹⁾ (百万米ドル)	【豪TAL】 ⁽¹⁾ (百万豪ドル)	【その他】 ⁽²⁾ (連結調整仕訳含む) (億円)	【連結】 ⁽²⁾ (億円)
	16/9末	16/9末	16/6末	16/9末		16/9末
資産の部合計	361,939	62,534	74,866	7,172	△9,627	497,418
うち現預金・コール	8,187	993	430	1,355	380	11,050
うち有価証券	303,708	57,984	56,457	2,909	△9,170	412,864
うち貸付金	28,079	-	7,422	-	15	35,733
うち有形固定資産	11,496	2	110	0	5	11,618
うち無形固定資産	834	34	2,849	1,192	△898	3,821
うちのれん	-	-	732	786	△888	471
うちその他の無形固定資産	225	0	2,100	406	△0	2,699
うち再保険貸	23	621	184	182	△23	952
負債の部合計	332,149	61,641	69,139	4,951	278	469,035
うち保険契約準備金	307,462	59,154	59,819	3,590	269	431,213
うち再保険借	6	1,495	244	307	△22	1,967
うち社債	4,762	-	4,345	-	-	9,234
うちその他負債	11,853	717	2,893	950	△322	15,957
純資産の部合計	29,790	893	5,726	2,221	△9,905	28,382
うち株主資本合計	12,065	410	5,960	2,221	△8,512	11,807
うち資本金	3,431	1,175	0	1,630	△2,431	3,431
うち資本剰余金	3,434	675	5,554	-	△6,527	3,297

(1) 米プロテクトティブ、豪TALの数値は、それぞれ米国、オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております。連結の際には、1米ドル=102.91円、1豪ドル=77.04円で、それぞれ円換算しています。

(2) その他および連結の数値には、本表に記載以外の連結各社に関する数値等が含まれています。

参考データ - 第一生命(単体)財務諸表(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

損益計算書 (1)

(億円)

	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減
経常収益	21,049	20,277	△772
保険料等収入	14,071	13,142	△928
資産運用収益	5,459	5,262	△197
うち利息・配当金等収入	4,046	3,768	△278
うち有価証券売却益	1,217	896	△321
うち金融派生商品収益	-	381	+381
その他経常収益	1,518	1,872	+353
経常費用	19,209	18,450	△758
うち保険金等支払金	13,631	11,453	△2,177
うち責任準備金等繰入額	267	1,613	+1,346
うち資産運用費用	1,624	1,304	△320
うち有価証券売却損	327	313	△14
うち有価証券評価損	50	95	+44
うち金融派生商品費用	246	-	△246
うち為替差損	285	435	+150
うち特別勘定資産運用損	355	98	△257
うち事業費	2,015	2,088	+73
経常利益	1,840	1,826	△14
特別利益	1	44	+43
特別損失	104	243	+139
契約者配当準備金繰入額	457	450	△7
税引前純利益	1,280	1,177	△102
法人税等合計	370	329	△41
純利益	909	848	△61

貸借対照表

(億円)

	16/3末	16/9末	増減
資産の部合計	358,949	361,939	+2,990
うち現預金・コール	6,452	8,187	+1,735
うち買入金銭債権	2,332	2,153	△178
うち有価証券	302,501	303,708	+1,207
うち貸付金	28,260	28,079	△180
うち有形固定資産	11,641	11,496	△145
負債の部合計	327,917	332,149	+4,231
うち保険契約準備金	306,352	307,462	+1,110
うち責任準備金	299,842	301,413	+1,571
うち危険準備金	5,760	5,850	+90
うち社債	2,157	4,762	+2,605
うちその他負債	10,950	11,853	+902
うち退職給付引当金	3,779	3,825	+45
うち価格変動準備金	1,484	1,564	+80
うち繰延税金負債	1,386	819	△567
純資産の部合計	31,031	29,790	△1,241
うち株主資本合計	11,755	12,065	+309
うち評価・換算差額等合計	19,266	17,716	△1,550
うちその他有価証券評価差額金	19,469	17,804	△1,665
うち土地再評価差額金	△164	△186	△22

(1) 特別勘定資産運用損益は、責任準備金の戻入れ/繰入れで相殺されるため、経常利益に影響するものではありません

参考データ - 第一フロンティア生命財務諸表(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

損益計算書

(億円)

	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減
経常収益	10,406	6,355	△4,050
保険料等収入	9,919	5,406	△4,512
資産運用収益	486	615	+129
その他経常収益	0	332	+332
うち責任準備金戻入額	-	332	+332
経常費用	10,082	6,357	△3,724
うち保険金等支払金	2,960	3,102	+141
うち責任準備金等繰入額	4,106	6	△4,100
うち資産運用費用	2,446	2,896	+449
うち為替差損	1,445	2,499	+1,054
うち事業費	510	319	△191
経常利益(△は損失)	324	△2	△326
特別損益	△12	△15	△2
税引前純利益(△は損失)	311	△17	△328
法人税等合計	24	0	△24
純利益(△は損失)	286	△17	△304

貸借対照表

(億円)

	16/3末	16/9末	増減
資産の部合計	61,322	62,534	+1,211
うち現預金	1,184	993	△190
うち有価証券	58,365	57,984	△381
負債の部合計	60,463	61,641	+1,177
うち保険契約準備金	59,481	59,154	△326
うち責任準備金	59,411	59,078	△332
うち危険準備金	1,146	1,144	△2
純資産の部合計	859	893	+34
うち株主資本合計	427	410	△17
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△1,422	△1,439	△17

参考データ - 米プロテクティブ財務諸表(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

損益計算書 (1)(2)

(百万米ドル)

	16/3期 2Q累計 (2-6月)	17/3期 2Q累計 (1-6月)
経常収益	3,472	4,312
保険料等収入	2,130	2,693
資産運用収益	1,149	1,412
その他経常収益	193	206
経常費用	3,282	3,971
保険金等支払金	1,865	2,393
責任準備金等繰入額	929	807
資産運用費用	60	284
事業費	308	384
その他経常費用	118	100
経常利益	189	340
法人税等合計	63	113
純利益	126	227

貸借対照表 (1)(2)

(百万米ドル)

	15/12末	16/6末	増減
資産の部合計	68,493	74,866	+6,373
うち現預金	397	430	+33
うち有価証券	50,843	56,457	+5,613
うち貸付金	7,360	7,422	+61
うち有形固定資産	113	110	△3
うち無形固定資産	2,663	2,849	+185
うちのれん	732	732	-
うちその他の無形固定資産	1,915	2,100	+185
うち再保険貸	165	184	+18
負債の部合計	63,912	69,139	+5,227
うち保険契約準備金	57,893	59,819	+1,925
うち再保険借	244	244	△0
うち社債	2,238	4,345	+2,107
うちその他負債	2,409	2,893	+483
純資産の部合計	4,581	5,726	+1,145
株主資本合計	5,822	5,960	+138
その他の包括利益累計額合計	△1,241	△233	+1,007

(1) 米国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております。

(2) 米プロテクティブの決算日は12月31日です。16/3期2Qの実績は、子会社化(2015年2月1日)以降、同年6月までの5ヶ月間の実績です。

参考データ - 豪TAL財務諸表(要約)



Dai-ichi Life
Holdings

損益計算書 (1)(2)

(百万豪ドル)

	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減
経常収益	1,626	1,844	+218
保険料等収入	1,449	1,662	+212
資産運用収益	14	138	+124
その他経常収益	162	44	△118
経常費用	1,550	1,722	+171
保険金等支払金	937	1,135	+198
責任準備金等繰入額	168	173	+4
資産運用費用	90	22	△68
事業費	301	334	+33
その他経常費用	53	56	+3
経常利益	75	122	+46
法人税等合計	19	44	+24
純利益	56	78	+22
修正利益 (Underlying profit)	81	79	△1

貸借対照表 (1)(2)

(百万豪ドル)

	16/3末	16/9末	増減
資産の部合計	7,043	7,172	+129
現預金	1,358	1,355	△2
有価証券	2,859	2,909	+50
有形固定資産	0	0	△0
無形固定資産	1,207	1,192	△14
のれん	786	786	-
その他無形固定資産	420	406	△14
再保険貸	148	182	+34
その他資産	1,470	1,531	+61
負債の部合計	4,890	4,951	+60
保険契約準備金	3,491	3,590	+99
再保険借	332	307	△24
その他負債	978	950	△28
繰延税金負債	89	103	+13
純資産の部合計	2,152	2,221	+68
株主資本合計	2,152	2,221	+68
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	522	590	+68

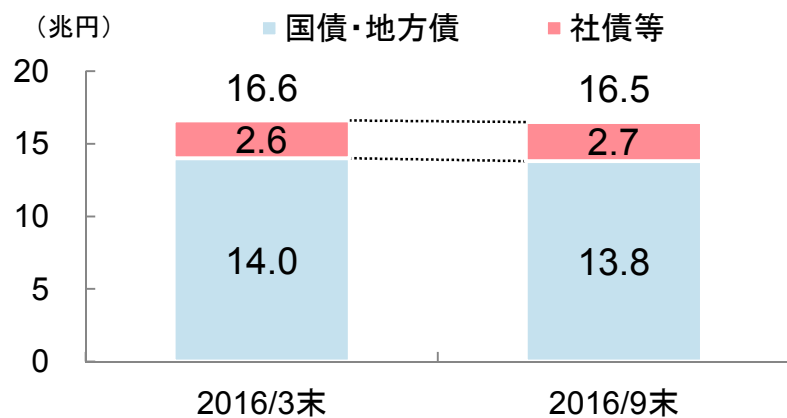
(1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値

(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております (修正利益を除く)。

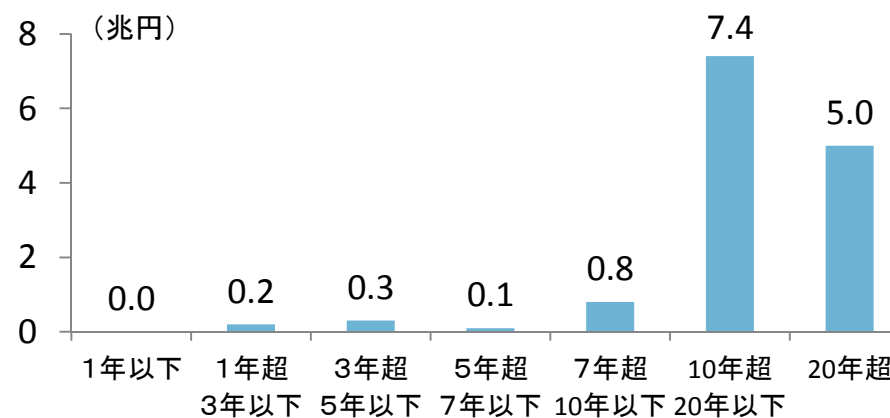


参考データ - 第一生命単体：保有債券の状況

円建債券の内訳 (1)

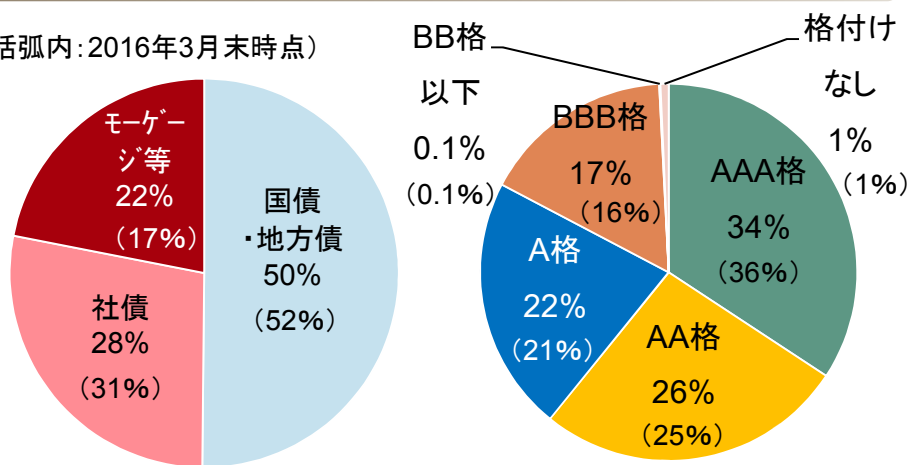


国債の残存期間別残高 (2) (2016年9月末)

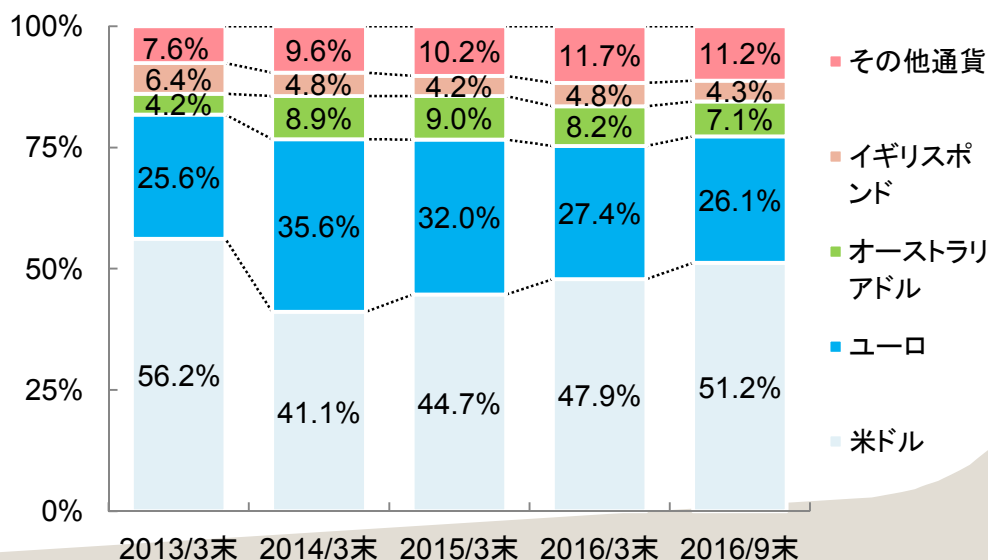


外貨建債券の内訳 (2)(3) (2016年9月末)

(括弧内: 2016年3月末時点)



外貨建債券の通貨別構成 (2)



(1) 簿価ベース
 (2) 貸借対照表価額ベース
 (3) 格付けはS&P・Moody'sの2社の格付け機関による格付けの中間の評価を採用、モーゲージ等を除く

参考データ - 金融市場への感応度(2016年9月末、第一生命単体)



Dai-ichi Life Holdings

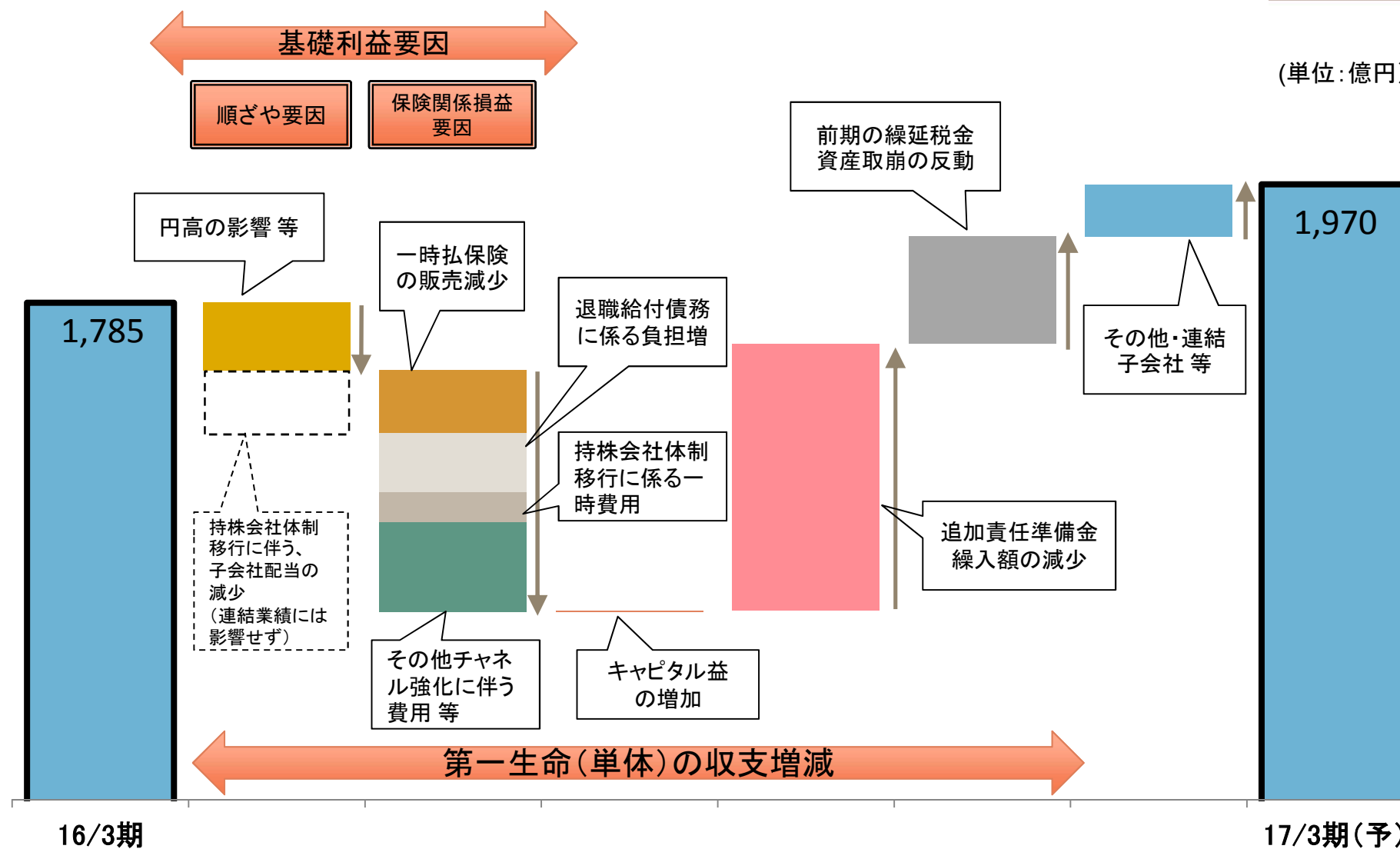
	感応度 (1)	含み損益ゼロ水準 (2)
国内株式	<p>日経平均株価 1,000円の変動で 1,700億円の増減 (2016年3月末:1,700億円)</p>	<p>日経平均株価 ¥9,600 (2016年3月末:¥9,400)</p>
国内債券	<p>10年国債利回り 10bpの変動で 2,900億円の増減※ (2016年3月末:2,900億円)</p> <p>※その他有価証券区分:400億円の増減 (2016年3月末:400億円)</p>	<p>10年国債利回り 1.3%※ (2016年3月末:1.3%)</p> <p>※その他有価証券区分:1.4% (2016年3月末:1.4%)</p>
外国証券	<p>ドル/円 1円の変動で 270億円の増減 (2016年3月末:290億円)</p>	<p>ドル/円 \$1 = ¥103 (2016年3月末:¥103)</p>

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度

(2) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準



【再掲】連結純利益⁽¹⁾の増減要因分析(一時項目の影響)

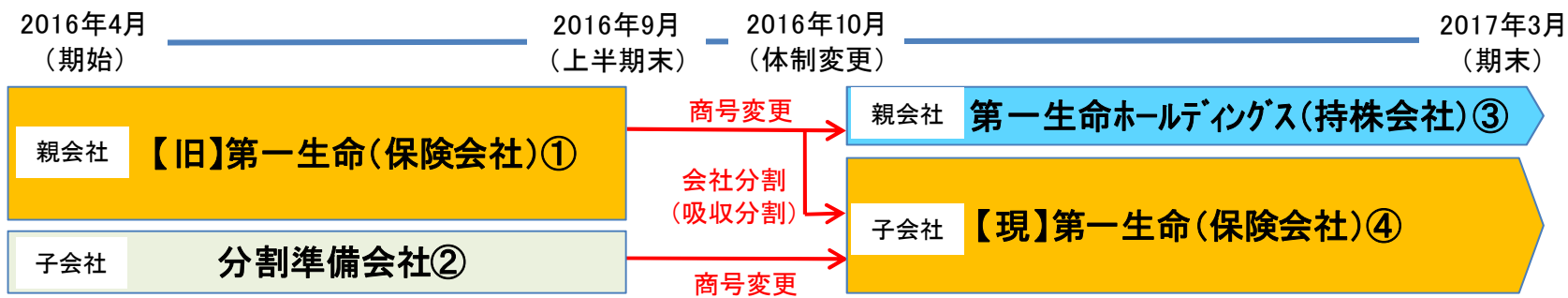


(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。



【再掲】 持株会社体制への移行に伴う、第一生命単体の収支状況の開示

- 当プレゼンテーション資料で示している第一生命単体の2017年3月期業績予想は、持株会社体制移行前の第一生命単体(下図①)の上期業績予想に、持株会社体制移行後の第一生命保険株式会社(同④)の下期業績予想を合算したものです。第一生命分割準備株式会社(同②)が計上する損益は限定的です。
- 持株会社体制移行前の第一生命単体の利息配当金等収入の一部には子会社・関連会社から支払われた配当が含まれています。持株会社体制への移行に伴い、第一生命ホールディングス株式会社傘下となった第一生命をはじめとする子会社・関連会社の配当は、第一生命ホールディングスの利息配当金等収入として計上されます。その分第一生命単体の収益は減少しますが、連結収支に対する影響はありません。
- 第一生命ホールディングスの収支は、経常収益が子会社からの配当収入や経営管理料が主要項目となり、経常費用は持株会社運営費用が主要項目となります。第一生命ホールディングスの17年3月期の業績予想は(下図③)で示した通りです。
- なお、上場会社単体としての2017年3月期業績予想につきましては、30ページをご覧ください。

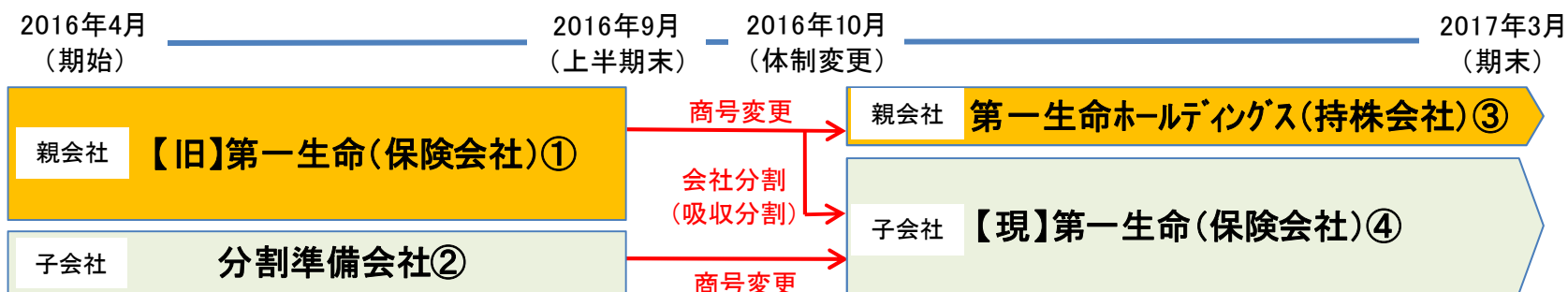


(億円)		(億円)		(億円)		(億円)	
第一生命単体 2017年3月期 業績予想		【旧】第一生命(保険会社)① 2016年4月1日～2016年9月30日		【現】第一生命(保険会社)④ 2016年10月1日～2017年3月31日		第一生命ホールディングス (持株会社)③ 2016年10月1日～2017年3月31日	
経常収益	37,960	=		19,290	+	18,670	180
経常利益	3,240			1,660		1,570	120
当期利益	1,330			680		650	120



【再掲】 参考データ - 上場会社単体としての2017年3月期業績予想

- 当社は2016年10月1日付で持株会社体制へ移行しました。持株会社体制移行前は第一生命として上場しておりましたが、持株会社体制移行後は「第一生命ホールディングス株式会社」に商号変更の上、上場を継続しております。
- そのため、上場会社単体としての2017年3月期業績予想につきましては、持株会社体制移行前の第一生命単体①の上期業績予想に第一生命ホールディングス③の業績予想を合算した数値となります。



(億円)		(億円)		(億円)		
上場会社単体 2017年3月期 業績予想		【旧】第一生命(保険会社)① 2016年4月1日~2016年9月30日		第一生命ホールディングス (持株会社)③ 2016年10月1日~2017年3月31日		
経常収益	19,470	=		19,290	+	180
経常利益	1,790	=		1,660	+	120
当期利益	810	=		680	+	120



本資料の問い合わせ先

第一生命ホールディングス株式会社

経営企画ユニット IRグループ

電話:050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命ホールディングス株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

2017年3月期第2四半期 財務・業績の概況

契約の状況等

		2016年9月期		16年3月期	15年9月期
			16/3期比		
新契約年換算保険料(グループ)	(百万円)	195,378	-	+ 10.5	387,292
うち第一生命	(百万円)	77,767	-	+ 22.9	140,645
うち第三分野	(百万円)	23,418	-	6.2	51,249
保有契約年換算保険料(グループ)	(百万円)	3,372,291	0.7	+ 2.8	3,396,202
うち第一生命	(百万円)	2,085,732	+ 1.0	+ 2.1	2,065,032
うち第三分野	(百万円)	585,069	+ 1.5	+ 3.4	576,556
連結保険料等収入	(百万円)	2,270,663	-	18.6	5,586,000
保険料等収入(第一生命)	(百万円)	1,314,251	-	6.6	2,866,602
うち個人保険分野	(百万円)	934,190	-	+ 3.0	1,923,189
うち団体保険分野	(百万円)	363,863	-	24.6	908,513
保有契約高(国内グループ生保合算値)	(百万円)	128,883,629	2.0	3.5	131,497,494
うち第一生命	(百万円)	122,076,933	2.1	4.3	124,721,652
解約・失効高(国内グループ生保合算値)	(百万円)	2,383,135	-	13.4	5,288,048
うち第一生命	(百万円)	2,285,706	-	12.4	5,065,766
解約・失効率(国内グループ生保合算値)	(%)	1.81	-	-	3.87
うち第一生命	(%)	1.83	-	-	3.87

3月期比、9月期比は増減比率

- (注) 1. グループとは第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命、プロテクト、TAL、第一生命ベトナムの6社。国内グループ生保とは第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命の3社
 2. プロテクト及び第一生命ベトナムの決算日は12月31日
 3. 新契約年換算保険料(以下、新契約ANP)及び保有契約年換算保険料(以下、保有契約ANP)には、プロテクトの損害保険事業、TALの団体保険を含む
 プロテクト: 2016年3月期第2四半期 新契約ANP 16,107百万円(うち損害保険事業4,302百万円) 保有契約ANP 518,410百万円(うち損害保険事業28,555百万円)
 : 2016年3月期 新契約ANP 35,685百万円(うち損害保険事業8,931百万円) 保有契約ANP 511,128百万円(うち損害保険事業28,574百万円)
 : 2017年3月期第2四半期 新契約ANP 15,745百万円(うち損害保険事業4,174百万円) 保有契約ANP 446,292百万円(うち損害保険事業24,245百万円)
 TAL: 2016年3月期第2四半期 新契約ANP 12,948百万円(うち団体保険2,835百万円) 保有契約ANP 195,800百万円(うち団体保険113,911百万円)
 : 2016年3月期 新契約ANP 49,484百万円(うち団体保険29,484百万円) 保有契約ANP 229,956百万円(うち団体保険142,765百万円)
 : 2017年3月期第2四半期 新契約ANP 8,183百万円(うち団体保険 1,415百万円) 保有契約ANP 200,130百万円(うち団体保険118,676百万円)
 TALの新契約ANPには、既契約における保険料改定等に伴う年換算保険料の増減を含む
 4. 保険料等収入のうち個人保険分野は個人保険+個人年金、団体保険分野は団体保険+団体年金の合計保険料(再保険収入は含まない)
 5. 新契約高、保有契約高、解約・失効高、解約・失効率は個人保険+個人年金保険
 6. 解約・失効は、失効後復活契約を失効と相殺せずに算出、主契約が継続している「減額」・「特約解約」は含まない、解約・失効率は契約高ベース

資産の状況等

		2016年9月末		16年3月末	15年9月末
			16/3末比		
総資産	(億円)	497,418	0.4	0.3	499,249
実質純資産額	(億円)	103,961	+ 1.6	+ 20.9	102,279
ソルベンシー・マージン比率	(%)	852.7	+ 88.9	+ 112.6	763.8

3月末比、9月末比は増減比率(ソルベンシー・マージン比率は増減ポイント)

(第一生命)

		2016年9月末		16年3月末	15年9月末
			16/3末比		
総資産	(億円)	361,939	+ 0.8	0.5	358,949
実質純資産額	(億円)	99,919	0.8	+ 18.5	100,729
実質純資産額/一般勘定資産	(%)	28.3	-	-	28.8
ソルベンシー・マージン比率	(%)	950.4	+ 49.6	+ 88.6	900.8

3月末比、9月末比は増減比率(ソルベンシー・マージン比率は増減ポイント)

基礎利益・順ざや

		2016年9月期		16年3月期	15年9月期
			15/9期増減額		
グループ基礎利益	(百万円)	196,224	71,184	26.6	535,139
うち国内グループ生保合算値	(百万円)	162,145	74,531	31.5	467,443
うち第一生命	(百万円)	188,752	42,604	18.4	465,441
うち第一フロンティア生命	(百万円)	23,812	32,861	-	9,138
うちネオファースト生命	(百万円)	2,795	+ 934	25.0	7,136
うち海外グループ生保合算値	(百万円)	34,079	+ 3,347	+ 10.9	67,696

(注) グループ基礎利益には国内グループ生保の基礎利益、プロテクトのOperating Income、TALのUnderlying Profit(税引前換算)、第一生命ベトナムの税引前中間純利益を合算し、第一生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値を掲載

		2017年3月期の予想	2016年3月期の実額
順ざや額(国内グループ生保合算値)	(億円)	減少の見込み	1,064

基礎利益の内訳
(国内グループ生保合算値)

	(百万円)	2016年9月期		16年3月期	15年9月期
		15/9期増減額	15/9期増減率		
基礎利益		162,145	74,531	467,443	236,676
順ざや額		35,336	16,419	106,402	51,755
最低保証に係る責任準備金等の増減による影響		37,599	26,973	39,558	10,626
保険関係損益		164,408	31,138	400,599	195,547

(注) 最低保証に係る責任準備金等の増減による影響とは、最低保証に係る責任準備金の増減による影響と、市場価格調整に伴う責任準備金の増減による影響を合算した数値
(最低保証に係る責任準備金を繰り入れた場合は基礎利益を減少させる要因になり、戻し入れた場合は基礎利益を増加させる要因になる)

(第一生命)

	(百万円)	2016年9月期		16年3月期	15年9月期
		15/9期増減額	15/9期増減率		
基礎利益		188,752	42,604	465,441	231,357
順ざや額		27,437	21,122	97,876	48,560
最低保証に係る責任準備金等の増減による影響		122	48	439	171
保険関係損益		161,192	21,433	367,125	182,625
うち危険差益		163,866	3,556	325,175	167,422

準備金

	(百万円)	2016年9月末		16年3月末	15年9月末
		16/3末比	15/9末比		
責任準備金(除く危険準備金)		29,556,248	+ 148,131	29,408,116	29,289,666
うち一般勘定(除く危険準備金)		28,550,551	+ 161,093	28,389,457	28,160,689
うち特別勘定(除く危険準備金)		1,005,697	12,961	1,018,659	1,128,976
価格変動準備金		156,453	+ 8,000	148,453	140,453
危険準備金		585,093	+ 9,000	576,093	567,093
うち危険準備金		123,089	2,368	125,457	128,516
うち危険準備金		282,544	+ 10,394	272,149	261,607
うち危険準備金		5,174	637	5,811	6,673
うち危険準備金		174,285	+ 1,610	172,674	170,296
危険準備積立金		43,120	-	43,120	43,120
価格変動積立金		65,000	-	65,000	65,000

(注) 1. 危険準備積立金・価格変動積立金は、剰余金処分後の残高を記載
2. 第一生命の実績を掲載
3月末比、9月末比は増減実績

含み損益

	(百万円)	2016年9月末		16年3月末	15年9月末
		16/3末比	15/9末比		
有価証券		6,012,098	199,912	6,212,010	4,721,638
うち国内株式		1,230,874	81,932	1,312,806	1,514,841
うち国内債券		4,141,558	+ 118,569	4,022,989	2,216,821
うち外国証券		637,301	213,533	850,834	958,405
不動産		136,690	+ 6,349	130,341	84,769
その他共計		6,171,350	163,296	6,334,647	4,791,415

(注) 1. 不動産の含み損益は国内不動産(含む借地権)を対象とし、再評価前の水準
2. 第一生命の実績を掲載
3月末比、9月末比は増減実績

運用実績と計画

	上期実績	下期計画
国内株式	(百万円) 63,695	基本は残高横ばいも、機動的に増減
国内債券	(百万円) 11,058	減少
外国株式等	(百万円) 333,997	増加
外国債券	(百万円) + 639,229	基本は残高横ばいも、機動的に増減
不動産	(百万円) 14,399	横ばい

(注) 第一生命の実績を貸借対照表価額ベースで掲載

資産の含み損益がゼロになる水準

	2016年9月末時点
国内株式(日経平均)	(円) 9,600
国内株式(TOPIX)	(%) 760
国内債券	(%) 1.3
外国証券	(円) 103

(注) 1. 株式は日経平均およびTOPIXに連動させ、株式の評価基準にあわせて算出
2. 国内債券は10年新発国債利回りで換算し、小数点第1位まで算出
3. 外国証券はドル円換算にて算出
4. 第一生命の水準を掲載

2017年3月期の業績見通し

	2017年3月期の予想
連結保険料等収入	減少の見込み
グループ基礎利益	4,600億円程度
保有契約年換算保険料(グループ)	増加の見込み
保有契約高(国内グループ生保合算値)	減少の見込み

銀行からの抛却と銀行への抛却

銀行からの抛却

		2016年9月末
株式に対する抛却	(百万円)	112,503
劣後ローン等	(百万円)	0

- (注) 1. 株式に対する抛却は、銀行・信託銀行(信託勘定を除く)・信用金庫の保有する当社株式を2016年9月末の時価で評価
 2. 劣後ローン等に、シンジケート・ローンによる抛却は含まない
 3. 第一生命の実績を掲載

銀行への抛却

		2016年9月末
保有している銀行株(時価総額)	(百万円)	354,125
劣後ローン等	(百万円)	1,042,097

- (注) 1. 保有している銀行株には、優先株を含む(各行・グループの海外現法への出資は除く)
 2. 劣後ローン等は、劣後ローン、劣後債及び優先出資証券など
 3. 第一生命の実績を掲載

職員数

		2016年9月末		16年3月末	15年9月末
			16/3末比	15/9末比	
営業職員	(人)	44,656	+ 3.9	+ 4.2	42,983
内勤職員	(人)	12,068	+ 3.7	+ 0.3	11,634

- (注) 1. 職員数(営業職員)には、当社と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしているもので、その他補助的業務に従事するものを含む
 2. 第一生命の実績を掲載
 3月末比、9月末比は増減比率

金融機関窓販の状況(第一生命と第一フロンティア生命の合算値)

		2016年9月期		16年3月期	15年9月期
			15/9期比		
変額年金保険	新契約件数	(件)	35,328	54.0	132,755
	金額(収入保険料)	(百万円)	188,297	58.9	775,443
定額年金保険	新契約件数	(件)	14,098	+ 104.5	12,912
	金額(収入保険料)	(百万円)	91,573	+ 183.9	61,252

- (注) 金融機関とは銀行、証券会社、信託銀行、信用金庫
 9月末比は増減比率

		2016年9月期		16年3月期	15年9月期
			15/9期比		
変額一時払 終身保険	新契約件数	(件)	8,418	48.3	39,358
	金額(収入保険料)	(百万円)	63,400	45.3	284,624
定額一時払 終身保険	新契約件数	(件)	16,224	56.8	74,755
	金額(収入保険料)	(百万円)	124,267	55.1	550,027

- (注) 金融機関とは銀行、証券会社、信託銀行、信用金庫
 9月末比は増減比率

その他質問項目(2016年9月)

変額年金保険等の最低保証に係る一般勘定の責任準備金 繰入・戻入の状況

			2016年9月期	16年3月期	15年9月期
変額年金保険等の 最低保証に係る 一般勘定の 責任準備金 繰入・戻入	第一生命	(億円)	1	2	1
	第一フロンティア生命	(億円)	293	315	281
	第一、第一フロンティア合算値	(億円)	294	317	282

(注) 繰入額についてはプラスで表示、戻入額についてはマイナスで表示